有所不為齋雜録

原本七十九

四

抄録

内閣文庫
和書
三六〇六七
九冊
一九〇函
二二架
(四冊)

内閣
42

史六二

内閣文庫
番號 和 36067
冊數 9 (4)
函號 150 161

国立公文書館
National Archives of Japan

内閣文庫

有所不為齋雜録 原本七九十

七 安政三丙辰年間 長崎下田箱館雜録
九 安政三丙辰年間
十 弘化三丙午年間

閣42

国立公文書館 National Archives of Japan

有所不為齋雜録 抄

七

安政三丙辰年間 長崎下田箱館雜録

国立公文書館
National Archives of Japan

英利蒸氣艦三隻入長崎ニ

安政三年丙辰

内啓

奉拜啓候然者去五日長崎エ英夷火輪船二艘軍艦一艘入津ホウリンク者五七日跡ヨリ渡来可致趣ニ有之ニ艘共先平穏之趣ニハ相聞候得共入津之砌来留之場所立切之番船差出候處夫等ニ一向無頓着港内迄突懸乗入候而右立切船三四艘蒸氣之勢ニ而押破ラレ船底ヘ巻込破船怪我人モ有之由上陸等モ定例之通申達候處都而

此方ヨリ之申談ニ者不取敢之答ニ而所々乱妨
徘徊イタシ候由ニ御座候委敷子細ハイマダ承
知不仕候得共先此段申上候唯今退出取込居大
乱書御判被成下候頓首

八月十八日

右有所不為齋雜録

安政三年丙辰

大坂表ニオイテ當月十一日夜子ノ上刻ヨリ寅
刻迄大雷雨次第ニ鳴通シ大阪町中エ三十四ケ
所迄在ヘ三十六ケ所落雷中ニハ雷火ニテ焼失
之所モ有之候
御城内ヘモ落雷御座候哉烏鞦敷落死居候分二
百羽モ有之由飛脚便ニ為知申参候間不取敢此
段御注進奉申上候怪我人等ハ相分不申候以上

八月十八日　　嶋屋佐右衛門

此方ヨリ之申談ニ者不取敢之答ニ而所々乱妨
徘徊イタシ候由ニ御座候奏敷子細ハイヤヤ承
知不仕候得共先此段申上候唯今退出取込居大
乱書御判談可被成下候頓首

八月十八日

右有所不為齋雜録

安政三年丙辰

大坂表ニオイテ當月十一日夜子ノ上刻ヨリ寅
刻迄大雷雨次第ニ鳴通シ大阪町中エ三十四ケ
所迄在ヘ三十六ケ所落雷中ニハ雷火ニテ焼失
之所モ有之候
御城内ヘモ落雷御座候哉烏夥敷落死居候分二
百羽モ有之由飛脚便ニ為知申参候間不取敢此
段御注進奉申上候怪我人等ハ相分不申候以上

八月十八日　嶋屋佐右衛門

右有所不為齋雜録

安政三年丙辰

安政三辰年八月十二日御用番堀田備中守
扶ヘ御届
領分去月廿三日午刻地震強場所ニ寄家打潰且
海岸通者高汐押上ケ流家并人馬怪我等モ可有
之哉ニ相聞今以日々震止不申汐合等モ不穩候
ニ付吟味モ行届兼候趣城下表ヘ追々注進有之
候依之委細之儀ハ猶吟味之上御届可申上候得
共先此段御届申上候以上

八月二日 在所日附　南部遠江守

私領分奥州八戸去月廿三日辰刻頃ヨリ地震度々御座候所午刻甚敷御座候而居所住居向一圓大破廻リ塀其外破損家中屋舗町在潰家等モ御座候引續津波度々船場海邊村方人家押流シ大小船破損流失田畑砂入押流シ且人馬怪我モ御座候旨在所家来共ヨリ申越候委細之儀ハ追而可申上候得共先此段御届申上候以上

八月十二日　南部遠江守

右有所不為齋雜録

安政三年丙辰

一當月廿一日夕八半時頃下田表ヘ蒸氣船一艘渡来仕亜墨利加之船印相見播三本隨分大船ニ而乗組モ大勢之様ニ御座候由右同所綿屋真兵衛方ヨリ注進申越候間堀江屋源兵衛ヨリ申出候間此段奉申上候以上

七月廿四日　名主

七月廿六日

七月廿一日未刻入港

亜墨利加蒸氣軍艦

船号サンヤシレント

長三十一間

巾七間

乗組二百五十四人

コモトール官名アルムストロング

コンシイル官名トウントハルラス

右者兼而官吏下田表ヘ取建度願望右ニ付コンシイル召連渡来之趣申立候ヨシ

但廿一日廿二日應接有之井上信濃守抵ニモ

今日御出立之由承ル

右有所不為齋雜録

箱館繫泊英吉利人ノ事

安政三年丙辰

安政三辰年此書付余所ノ人ニ見セテハワルヒト云沙汰ナリ深ク秘ス

一五月朔日イキリスのサイビルト云船ヨリ異人三十人程上陸一同ニテ廣嶋屋ト云酒問屋ヘ這入理不盡ニ酒藏ヘ入酒一樽ヲ取出シ一同ニテ呑ホシ夫ヨリ町中歩行乱妨シ餅并菓子抔取喰ヲ其上五十嵐ト申藥種屋ヘ行キアバレタルヲ叱候迚大勢集リ来リ建具ヲ破リ

其外諸品并藥種投ナラレ其上六十餘ノ亭主
病氣ニテ臥リ居タルヲ頭ヲタヽキ二寸程ノ
疵ヲ付タリタ方ニ至リイキリスノ醫者トテ
来リ療治ヲナレテ行タルトソ
一右之如ク町中アバレ歩行候ニ付同心一同急
呼上ニテ町中防ノタメ廻リニ出タレトモ異
人トモ大勢ナレハ思フ様ニ行届カス止事ヲ
得ス異人一人打伏セ縛リ上ケタレ共酒ニ醉
タレハ倒レテタ方迄寐テ居タリ夫ヨリ夜ニ
入テ船ヘ連行船將ヘ斯々咄シ帰リヌ翌日ニ

至リ打コハシタル品其外共船將ヨリ銀錢ヲ
出シテツクノヒタリ
一箱舘ヨリ續キタル所ニテ一里程隔リテ七里
濱ト云小村アリ五月二日タ七ツ時過百姓常
吉并樂右衛門ト申者方ヘ異人共三十人程ニテ
押込タリ女房子供計故逃出タリト云其迹ニ
テ異人共三拾人程ニテ金子七両程其外衣類
又者食物器物佛具迄盗取逃去タリ翌日届タ
リ是亦船將ヘ懸合銀錢數多送リヌ
一五月三日右等ノ事ニ付御役所ヘ船將三人呼

出レ應接有之候此方ヨリ市中乱妨等之事懸合タレハ船将申ニハ中々下々ノ事迄ハ行届マセヌ夫ト云モ當所ヘ先日中牛ヲ被下候得ト願ヒタルニ未其願ノ叶ワヌ故ナラシト思ハレ候得者牛ヲハ是非々々被下候得ト答タリ

一五月十八日申ノ下刻端舟ニテ異人六人乗組松前ノ江差トカ云湊ヘ漂流致シタレハ松前ノ家来罷出尋ルニ異人ノ申ニハアメリカ合衆國ノ漁船ニテ「ニウヘトツフオル」ト云處ヨリ出ル船ニテ二十八人乗組「サカレン」ト云處ニ行タルニ沖合ニテ霧深ク暗礁ニ乗懸本船ヲヒツクリ返シ漸ニ六人助リ是迄来リタリト物語ニテ松前家来平井重右衛門ト申者同月廿二日箱館御役所ヘ連来リ引渡候ニ付白洲ニテ御尋アル所アメリカ便船アリ次第帰リ度夫迄ハ御邪广ナカラ此處ニ置テ被下ト云ニ付同所辨天丁明キ家ヘ入置足軽一人小遣一人附置タリ應接懸下役朝晩廻リニ行事ナリ晝ハ市中ニ遊行イタシ不苦トヤ此節ハ大船其外バッテイラ拵當所築嶋ト申處ニ小

屋ヲ建拵ヘ居ル故此處ヘ遊ニ行ト此異人共
差圖シテ拵ワセルナリ誠ニ誠ニ珍ラシヒハ
ナシ也

一六月十一日夕英國ハルコータト申火輪船百
六十人乗組ニテ渡来薪水欠乏ノ品求度趣御
用所ヘ羅越候處前条漂流アメリカ人ニ途中
ニテ出會面談イタシ候處右之物語故不便ニ
付唐國香港ニハ米國商館有之間同船渡シニ
テ同國ヘ引渡遣シ可申旨相談モ相整候由申
聞候

一同月十三日英國サイビル軍艦渡来翌十四日
應接有之候處タツタンヲメクリ候處人家モ
多分有之趣咄致其後先達テ中乱妨イタシ候
者共ハ此方ニテ嚴敷イメシメ置候由英將申
聞候處鎮臺御申ニハ牛ハ人カヲ助ルモノニ
テ日本ニテハ遣候事制禁也尤其國ニテハ病
人多有之趣右病ニハ良藥之由ニ甘奨テ官府
ヘモ申立置候得共未タ御下知無之間下知有
之迄被待候様ニトノ事也船將コモトール并
アトミラール申ニハ我國ニハ定食ニイタシ

候殊ニ長々渡海致候事故病人九三十人程モ
有之何分欠之品牛也願フト云タレ共受ス鶏
ヲ遣サントト云タレハシブシブ挨拶シテ帰リ
又夫ヨリ同所ニ至リ鶏千羽呉レトイフタレ
ハ二百羽迄ハヤラフト云タリ未タ決着セズ
一オロシヤトトルコトノ軍ハ和睦ニ可相成哉
之由所ノ船将申聞候
一當五月廿日頃エトラフ島ヘ英吉利國ノ水夫
一人上陸シタリ右ハ當節本船洋中ニテ破壊
シ船中之人々皆悉ク没死シ只一人助リタリ

便船有之迄御扶助相願候様同所役場ヘ願出
候由去ル間同心柴治鐘太郎并足軽甘添箱舘
表ヘ送リ越候積リ

箱舘出

六月廿一日附

右有所不為齋雑録

岩瀬忠震帰江戸

丙辰九月

某氏書翰抄

扨一昨日下田ヨリ岩瀬修理罷帰官吏ヘ夫々及談判候處何事モ不申出都而イカヤウニテモ宜旨申居右ハ此方之御所置感伏ニテ閉口イタシ居候ニハ無之何レ近々彼ホウリング羅越候得者萬事變革大懸リニ可相成先十ケ所程モ開港ニ相成交易ハ勿論諸件此姿ニテハ相濟不申是非御改ニ可相成其節ハ下田ハ止メニイタシ能港々ヘ商館モ御取建之事故唯今彼是申上ニ不及

今少レ之辛抱故夫迄ハ何モ申上間敷旨申聞候
間更ニ取合不申閑港モ第一ハ大阪ト相聞長崎
之模様ニ寄速ニ江戸ヘ相迫リ閣老ヘ面談不致
候テハ相濟申間敷トノヨシ和蘭蒸氣モ下田ヘ
渡来ニ付幸船将ヘ承合候處和蘭人ハ深ク心配
イタシ居御変置振ニ寄直ニ各國申合押懸渡来
大騒動ニ可相成此度之ホウリンク渡来ハ實ニ
不容易事ニテ亜夷同様之次第申聞居候由右之
外種々不容易事柄ニテ中々筆認ニテハ申上兼
候昨朝ヨリ度々衆議有之候得共決兼詰リ何モ

カモ大變ニ成行申候將又丹波守左衛門尉筑後
守中村為弥長崎為應接可被遣旨昨夕被
仰渡候餘ハ拜唔云々

九月十七日　有所不為齋雑録

安政三年丙辰

丙辰七月廿一日雨

タ七ツ時アメリカ國蒸氣「レガット」「センセレン」入津仕候○船長サ三十六間餘幅七間餘リ衆組人數凡二百五十人内支那三四十人衆組罷在候旨是ハ渡来途中ニテ唐船一艘破損イタシ候ニ付救候趣ニ候○蘭人スコトスケント申者通辯官トシテ衆組罷在候○懸リ役人早々異船ヘ参リ来意相尋候處印度日本支那海ノ水軍都督

「セイムスアルムストロング」人名并日本滞在ハ「コ
ンレユルセテラー」官名ニ任セラレ候「トーント
ハルリス」人名渡来致候旨ニテ候合而御國政府ヘ
呈レ候書翰差出候速ニ江戸ヘ送リ玉フヘシト
云奉行ヘモ書翰一通差出候

廿二日 此節モ日渉

今日下田奉行應接有之筈之處水師提督少々不
快之趣ニテ「ハルリス」人名計リ應接可致旨彼ヨリ
申出候ニ付奉行モ病氣之趣ニイタシ延引〇士
分以上ノ蘭人七八人御用所ヘ參リ諸品調ヘ申
候

廿三日晴

明廿四日奉行應接可致旨本船ヘ申遣候處明日
八日曜日ニ付船中一同相祝候間明後日應接仕
度旨異人ヨリ申候間其通リ約定イタシ候

廿四日晴

明日弥應接差支無之哉且上陸人數等之儀異船
ヘ問合申候處日曜日ニ付用談一切ニ不仕旨申
候而返答不仕候ニ付無據其儘イタシ置候事

廿五日晴

四ツ時ヨリ奉行御用所ヘ参リ居候處四ツ時頃
異船ニテ祝炮十二發相放チ左之人數上陸仕候
「コンシレユル」セテラール」官名ハルクス」人名帶劔
船將ベレ人名　同
通辨官ヒユースケン人名　同
其外士分之者一人帶劔
都合　十一人
右夫々座ニ就キ茶煙草盆菓子并御料理被下候
處至極難有頂戴仕候對話書別冊アリ
廿六日晴

コンシレユル并通辨官ヒユスケン御用所ヘ参リ
若菜三男三郎應接有之對話書別冊
七月廿七日
コンシレユル并通辨官ヒユースケン人名以上
両人御用所ヘ来リ森山多吉郎應接左之通
コン
御奉行御病氣如何
多

奉行病氣モ免角同様組頭若菜三男三郎昨日歸宅
後ヨリ俄ニ病氣今日ハ床ニ就キ居候位之事
ニ付今日ハ拙者命ヲ蒙リ對談イタシ候扨昨
日モ段々申述候通リ條約面之通リ十八月之
後ハコンシエル當所ニ差置ト申儀ハ元ヨリ
此方ニテ承知ノ事ナレハ両國ノ政府ノ中何
カ無據儀モ出来候ハヽト申事有之故弥コン
シエル渡来ナレハ其前何トカ被申越候儀ト
此方ニテハ心得居候間今般直様滞在ニ有之
候テハ甚タ差支申候然レナカラコンシエル

ヲ差置候儀今更不承知ト申譯ニハ無之候得
共唯々當國ハ津波後引續震災彼是混雜ニテ
万端差支候ニ付暫ク差延シ度事ニ候
コン
少々怒ヲ顕シ申候ニハ當所ニハ何分御談シ
行届兼候間本船ヘ帰リ水師提督ヘモ相談イ
タシ蒸氣船ニテ直様江戸ヘ参リ談判可致候
今日ハ泉早何事モ不申候
多
拙者身分賤シキ故ニ何事モ談シ無之哉

コン

左ニハ無之候下田滞留之事ニ付テ御相談申候ニ御奉行モ組頭モ此座ニ御立合無御座候而何分ニモ私此度コンシエル官相應之格式ヲ以テ下田ヘ上陸致候儀御承知御不承知カノ否早々御奉行ヨリ書翰ヲ以本船被仰遣候様可被致候

多

然者無據候間被申述候趣早々奉行ヘ可申聞候

右應接之節モ菓子飯被下候

廿八日

組頭若茱三男三郎本船ヘ参リ應接左之通リ

若

昨日御用所ニオイテ被申聞候儀ニ付今日拙者参リ申候元ヨリ其方之上陸ハ不承知ト申譯ニハ無之候間先差當リ柿崎玉泉寺ヘ上リ

可被申候

コン

彼是御談シ申候儀無益ニ候間是ヨリ直様江
戸ヘ参リ有無之御挨拶承リ候方宜敷
若
下田之懸リ之事ハ總而下田奉行ニテ取扱候
間若其方江戸ヘ参リ候得ハ拙者共モ矢張一
同江戸ヘ参リ對談イタシ候事故同様之事ニ
候
コン
絶二時之間ニハ蒸氣船ニテ江戸迄参リ候間
江戸之政府ニテ疑ト否之御返答承リ候方宜
敷候
若
再三申聞候通其方之滞在ヲ敢テ不承知ト申
譯ニハ無之候得共コンシエル此度之渡来ハ
何分不意之事ニテ未タ萬端用意モ聞届居不
申候ニ付一時之處先ツ兎モ角モ玉泉寺ヘ滞
在可被致旨申聞ヲ蒙リ候
コン
玉泉寺濕地之様子ニモ見受候間然者御用所
ヘ上リ滞在可致候

若

御用所ハ総テ公邊之御用取扱候場所ニテア
メリカニ不限俄ニ和蘭其外我國之廻船之儀
彼所ニテ取扱候間タトヒ暫時ナリトモ其方
ヘ借申渡相叶不申候
コン
然ラハ此方ニテ見立之可申候間下田町之内
ニテ一ケ寺御明渡シ可被下候両國之懇情之
為ニ参リ候事故其位之事ハ可然被存候元ヨ
リ下田ニ滞留可致候様アメリカ米大統領ヨ

リモ被申付候間柿崎ニテハ上リ不申

若

柿崎トテモ決シテ他所ニハ無之候矢張下田
中之柿崎ニ候
コン
然シナカラ條約ニモ下田竜泉寺柿崎玉泉寺
ヲ休息ト定ムルト有之候間更ニ別ト被存候

若

下田トイフハ此處之総名柿崎ハ下田小名ニ
候

コン

何分ニモ

若

長々滞在之儀ハ尚又追而對談可致候得共差當リ相應寺院モ無御座候間兎モ角モ玉泉寺ヘ上リ可被申候濕氣之儀ハ如何様ニモ防キ方手當可申付候尤甚手狹之場所ニテ氣之毒ニハ存候得共共段ハ勘辨可被致候

コン

段々御言葉ニ候間能々勘辨之上後刻通辨官ヒユスケンヲ以テ御挨拶可申候然シ本住居之場所二ケ月之中ニハ出来イタシ候様可被成候

若

其儀之談判ハ今日奉行ヨリ不被申付候間ソレハ追々談判ニ及可申候

右應接後船中蒸氣船仕懸抔一覧之上珎酒呂々馳走ヲ受ケ罷帰申候尓後通辨官ヒユースケン人名御用所ヘ来リ其節之應接左之通

ヒユスケン

コンシエルヨリ被申付先刺之御返答申候

宍戸勘太夫

兼知イタシ候

ヒエ

先刺段々之御談シ候間然ラハ玉泉寺ヘ上候

様可致候尤其外荷物ヲ揚候間小船二艘明後

日御遣可被下候

完

承知イタシ候其段奉行ヘ可申聞候上陸滞在

被致候人數承度候

ヒエ

コンシエル并私外ニ小遣トシテ唐人四人都

合六人滞在イタシ候

廿九日

異人數人御用所ヘ参リ諸品相求メ申候○石炭

十万斤御渡シニ相成候

八月一日

明後三日御用所ニオイテ岡田備後守對話可致

旨本船ヘ申遣シ候事

二日

昨日下田奉行井上信濃守江戸ヨリ到着致候ニ
付昨日備後守一同御用所ニオイテ対面可致旨
宍戸勘太夫ヲ以テ本船ヘ申遣候事
三日
コンレユル并ニコモドール其外士分以上之異
人十三人帯剱ニテ御用所ヘ上リ井上信濃守岡
田備後守應接左之通
但菓子茶酒御料理被下候事
信
此間アメリカ米政府ヨリ江戸政府ヘ書翰被
差越候ニ付今般拙者政府之命ニテ参リ道中
急キ一昨日着致候ニ付今日面會可致候
コン
承知イタシ候
信
先日ヨリ支配向ヲ以段々対談ニ及候之處其
方ニハ政府之命ニテ渡来被致直様當所ヘ滞
在之積リ之趣是ハ尤之事ニ候條約書ニ無據
儀モ有之候得共「コンレユル」ヲ當所ヘ差出シ
候ト云左候得者此度コンレユルヲ被差越候

ハ、定メシ米政府ニオイテ無據儀有之候事
故ト被存候共無據ト申ハ何故ニ候哉承リ度
候
コン
條約ニ有之候間日本ヘ参リ滞在イタシ両國
之好情弥厚ク相成候様宜敷取計ラヒ可申旨
被申付来リ候事ニテ外ニアメリカ政府ニ於
テ如何様之秘密御坐候哉其儀ハ存レ不申候
備
然者其方當所ニ滞在之上ハ如何様之儀取計
被申哉
コン
第一アメリカ之人民當所ヘ参リ乱妨仕候様
之事モ候ハヽ是ヲ取締イタシ又當港ヘ参リ
候船ハ夫々本國ヨリ手形ヲ持参イタシ候間
是ヲ取調ヘ或ハ當國何レノ浦ヘアメリカ人
漂着仕候共夫々取計致候事ニテ何レノ國ニ
テモアメリカニ而ハ港ヲ開候先々皆コンシ
ユルヲ差置當時ニテハ二百五十余ケ所ニコ
ンシユル滞在致居候

備

漂民其外之取締等両國和親イタシ居候事ニ
ハ如何様ニモ此方ニテ取計可申候當所モ手
狹之場所ニ今日其方ヲ差置候上者蘭ヲロシ
ヤ等之コンシユルヲモ差置候様成行ニ付甚
タ迷惑イタシ候
コン
手狹ト被仰候得共元々ペルリノ所望ハ浦賀
ヲ開キ候積リ之處日本ノ御勝手ニテ當所ニ
御定メ被成候又私當所ニ滞在仕候共諸賄之

儀者聊御厄害ニ相カヽワリ候事ニ者無之候
備
其儀ハ承知イタシ候得共右之譯合故彼是ニ
而此方ニモ甚不都合候間往々コンシユル引
拂候様アメリカ政府ヘ談シ度此方其方ヨリ
アメリカ政府ヘ懸合呉候哉
コン
私ヨリ懸合ハ出来不申候
備
然者コモドール水師提督政府ヘ被取次可申哉

コモドール

私儀ハ今般コンレユルヲ日本ヘ護送可致ト
ノ命ニテ参リ候事故即日本之事ヲ萬事取扱
候此コンレユルト御談レ被成コンレユル差
圖ニ候得ハ如何様ナル事モ取次申候
此時御料理被下食事之雑談左之通

備

コモドールニハ當所ヨリ何方ヘ被参候積リ
ニ候哉

コモ

渡来之途中ニテ唐船ヲ救ヒ五十人餘リ召連
来候間是ヲ返レナカラ一應支那ヘ参リ候積
リニ候何ソ御用モ候ハヽ便リニ差上可申候
五大洲中ヲ掌中ノ如ク心得居候故ニ自然ク様之詞モ出候事ト奉行一同カンジ且大笑ヒ致レ候也コンレユル當地ヘ上陸ヲ見届候上ハ船
用意出来次第出帆仕候

備

トルコヲロレヤノ戰爭ハ何方之媒ニテ和睦
ニ相成候哉

コモ

フランスノ中入ニテ和睦ニ相成候ヲロシヤ
砦杯悉ク破レ地ヲモ差戻シ申候
備
死人定メシ夥敷事ト被存候
コモ
雙方ニテハ病死トモ五十萬人余之死人ニ候
右談話後コモドール并士分之異人七人ハ先ニ
帰リコンシユル并外ニ両人殘リ對話左之通
信
コンシユル引拂之儀ニ付アメリカ政府ヘ篤

ト談シ度候定メテ其中條約之附録持参ニテ
使節渡来可致ト被存候
コン
附録差タル儀ハ無御坐候間右持参之使節参
リ不申候
備
然シ先頃アワダレス人名被申候而何レ附録モ
差越候趣ニ候
コン
アワダレス左様申候ハヽ定メテ私ヘ届来ル

事ト奉存候アメリカヘ御懸合被下度候委シク御書面ニ附録被遣候様御認御遣シ可被成候左候得ハ右御書面本國ヘ送リ候儀ハ元ヨリ彼所ニテ仕候間タトヘ我身分之害ニ相成候儀ナリトモ取計ライ申候尤此度最初ヨリ御懸合之筋一々私ヨリ本國ヘ申遣候得共是ハ申遣候迄ノ事ニテ本國ヨリ返事ト申テハ参リ不申候御書狀御遣シ被成候得ハ本國ヨリ御返書モ差越可申候

備

然ラハ何レアメリカ政府ヘ懸合候間其方ニハ當分之事ト被心得候テ玉泉寺ヘ滞在可被致候斯ク今日色々ト談シ候モ元ヨリ和親之事故懇談ヲ遂テ其方差支サヘ無之候得ハ政府之都合モ宜敷様イタシ度存シ候故之儀ニテ別儀有之譯ニハ無之日本ニテハ是迄鎖國ノ事故コンシユル滞在ニ付而ハ他國之振合モ不相分氣ニ候間此段モ色々面倒ニ相尋候儀モ可有之候此段アシカラス御承知可被致候

コン

承知仕候聊若シカラサル儀ニ御座候

八月四日

異人ヨリ案内ニ付両奉行異船ヘ参リ奉行ヨリ
所望致候ニ付奉行上船之上大砲小銃鎗劔之調
練一見仕候三十二ポンドノ大砲ハ一挺ニ付十
一人掛リ六十四ポンド一挺御座候處是ニハ十
六人懸リニテ何レモ銃銃ドンドル仕懸ニ御座
候引續キ空砲十二發放シ頻ニ音楽等モ奏シ申
候楽器ハ喇叭六挺太鼓大小二ツ并ドラニ御座

候ゲウエール調練ハ大鼓ト横笛御座候大砲調
練之節ハ号令官船ノ中央ニ立チルーフル器名ニ
テ号令イタシ候着發彈モ相用候哉ト奉行ヨリ
相尋候處着發彈ハ戰場ナトニ而混雜之節ハ取
扱甚タ六ケ敷候ニ付當時ハ用ヒ不申候旨申候
フランドコーケルハ如何ト申候處是モボンベ
ン彈ニ比スレハ遥ニ劣リ候間當時用ヒ不申旨
答申候蒸氣仕懸抔モ子細ニ見物イタシ異人種
種ニ懇情ヲ盡シ申候

八月五日

手元迄引イフ此銃ト申小筒一挺一四ドルヲル
二拾五両ニ当リ申候ニテ異人ヨリ御買上相成申候此筒
ハ新工夫ニシテ彈ハ一發毎ニ手元ヨリ込候得
共ドンドルハ二十五發達發出来候様ノ仕懸ニ
御座候コンシエル并通辨官ヒユースケン人名ト
申蘭人一人外ニ支那人四人上陸イタシ當時玉
泉寺ニ滞在罷在候
六日
今七ツ時退帆仕候

右有所不為齊雜録

安政三年丙辰

評定所一坐
海防掛
林大學頭
伊澤美作守
浦賀
長崎奉行
箱館

下田

辰七月廿五日大和守殿御直御下ケ

亜墨利加蒸氣船一艘入津之儀ニ付申上候書

付

御届

岡田備後守

昨廿一日未刻武山遠見番所合砲相聞無程異船一艘入津致候段湊番所等ヨリ注進有之候ニ付支配向之者共并通詞差遣立會御勘定方御目付方罷越来意相尋候處亜墨利加蒸氣船ニテ拾ケ月以前本國出帆所々航海之上當港入津イタシ候由尤コモドール名アルムストロング人名并當湊ニ可罷在官吏其餘史官水夫等二百五十四人乗組罷在今廿二日一同上陸面會致度段申聞猶横文字書付三封内二封ハ政府一封ハ私共ヘ差出候ニ付請取罷帰候旨支配向之者等夫々申聞右書付二封之儀寫ハ差出不申候得共此上應接之心得ニモ可相成哉ト兼而被仰渡之趣ヲ以外一封一同和解為仕候處何レモ官吏差置方之儀ニ有之右ハ先達而中御沙汰有之候次第等厚差含精々説得ニオヨビ候積リニ御座候尤今日於御

用所面會之上應接之模様等追々申上候様可仕
候得共先別紙横文字書付并和解對話書共相添
不取敢此段申上候以上

七月廿二日

右有所不為齊雜録

安政三年丙辰

七月廿一日未刻湊内碇泊之亜國蒸氣船
ヘ来意為尋問調役下役齊藤源之丞同心
金子銑太郎通詞名村常之助立石得十郎
為立合御普請役森恭次郎御小人目付三
浦鉦之助罷越及對話候趣左之通
此方
一當所奉行ハ岡田備後守ニ有之何國之船ニ
テ何用有之渡来イタシ候哉承リ度拙者ハ

當所役人ニ有之候

彼方

一御奉行様ハ御昏リ無之哉先般ペルリ罷越候砌御関係之御方ニハ無之哉拙者ハ亜墨利加コンシュル官名トウントハルス人名ニ御座候

此方

一ペルリニ者関係不致候コンシュル始無恙入津大慶存候

彼方

一忝奉存候

此方

一本國何頃出帆イタシ候哉

彼方

一拾ヶ月以前出帆今日當湊入津イタシ候

此方

一薪水食料石炭等差支有之候ハヽ申立ベシ

彼方

一忝奉存候是ハ追而可相願川水ニ候哉又ハ井水ニ候哉樽ニテ御送リ可被下候

歴史課

此方

一川水モ井水モ有之何レモ宜方可相送尤船ニテ相送リ候儀ニ有之候

彼方

一兎モ角モ試度候間先一艘相願度候明後日御送リ可被下候

此方

一承知イタシ候船将其外名前乗組人数船号等承知イタシ度候

彼方

一乗組人数二百五十四人之内コモトール官名アルムストロンク名人名船将ヘル名人名通辨官ヒユスケン人名船号サンヤシント船長サ并士官人数等ハ追而可申上候

同

一書翰三封差出二封ハ江戸表御老中方ヘ御差出可被下候一封ハ御奉行ヘ御差出有之度候且官吏居所ハ出来致居候哉

此方

一三封ハ慥ニ請取候罷帰早速奉行ヘ可差出

官吏居所等之事件ハ拙者ヨリ挨拶難及候

彼方

一今日無恙入津仕候ニ付右御届并御奉行
御容躰伺旁士官之者一人御奉行所ヘ可
差出候間御台連可被下候

此方

一深志之段ハ忝存候得共當時奉行所モ普請
中且道路モ悪敷却而失敬之儀等有之候而
ハ不宜殊ニ拙者舩中ヘ罷越一同無恙由承
知イタシ候上ハ別段被相越候ニハ不及候
間厚志之段ハ奉行ヘ申聞候様可致候

彼方

一委細致承知候入湊之砌其所之官邸ヘ届
ニ参リ候儀ハ諸蕃一般之禮ニ有之候間
是非共差出可申候

此方

一波戸場ニ目印之タメ旗建置候間同所ヨリ
勝手次第上陸可致候勿論御用所等モ士官
之向被相越候儀モ有之候ハヽ其所可被申
聞候

彼方

一時宜ニヨリ外場所ヨリ上陸イタシ不苦

哉

此方

一上陸場ハ湊内三ヶ所ト相定候儀ニ付外場

所ヨリ上陸ハ及断候

彼方

一明日天氣次第一同上陸御奉行ヘ御面談

イタシ度候

此方

一委細承知イタシ候罷帰リ奉行ヘ申聞候上

可及挨拶候右ニテ談判相濟一同引取候事

辰七月廿一日渡来

亜人對話書

七月廿一日申刻アメリカ船ヘ為應接調

役並出役合原猪三郎宍戸勘太夫同下役

服部健蔵同心黒澤般五郎通詞名村常之

助立石得十郎為立合御普請役森恭次郎

御小人目付三浦鉦之助羅越コンシエル

官名ハルリス人名ヘ對話之趣左之通

此方

一先刻来意尋問トシテ其筋ノモノ罷越候處コモトール官名并コンシエルジュ官名等渡来之由其外申立之廉々委細出張之モノヨリ承知遥々之航海數月ヲ経別而煩勞之儀ニ存候差出候書面三通之内江戸表ヘ之二通ハ早速差立候様可致奉行ヘ之書面ハ慥ニ落手直ニ飜譯申付置候間云々之儀ハ和解之上承知イタシ遣而可及挨拶右之趣申入タメ拙者共出張被申付候

彼方

一仰之趣委細承知仕候

此方

一奉行ヘ面會之儀ハ委細承知明日面會可致九ツ時頃案内之者可差遣間其刻同伴上陸可致候

彼方

一仰之刻限ニテハ少々差支有之候間九ツ半時上陸仕度候

此方

一左候ハヽ右之時剡案内之モノ罷越候様可
取計候
彼方
一上陸之砌私方之艀ニテ罷出候而御差障
之儀無御座候哉
此方
一差障之儀聊無之候
同
一十ヶ月前本國出船永々之渡海定而差支之
品モ可有之當湊有合丈ケ之品ハ給レ候間
可被申聞候
彼方
一難有奉存候差當リ菓調申度梨子西瓜蜜
柑等當地ニ有之候哉
此方
一蜜柑ハ時候違其外之品々當時生熟至テ少
々候得共其筋ヘ申付有合丈ケ差遣候様可
致候
彼方
一品々一見致度何卒明朝少々宛ニテ宜候

間可成丈數種御達ニ被下度候

此方

一明日之上陸凡士官何人總人數何人候哉拙者共心得迄ニ承知致度候

彼方

一明日之儀ニ候間只今聢ト難相定候得共先士官十一二人程ニ可有之コモトール官名儀ハ少々不快故時宜ニ寄不参可仕候

同

一當表ヨリ江戸迄之陸行凡幾日ニテ相達可申哉

此方

一五六日ニテ可達候

彼方

一先刻差上候書翰ハ幾日ニテ江戸表ヘ相達可申哉

此方

一五日程ニテ可相届候

彼方

一右之御返事ハ幾日ニテ到来可致候

此方

一返事之儀ハ申立之事柄次第ニテ夫々衆議モ有之間遲速ハ豫難定候

此方

一コモドール官名病態如何候哉

彼方

一少々之瘴邪當分之儀ニ御座候

此方

一折角療養可被致候若明日全愈上陸ニ候ハハ同行之者モ多人數ニ可有之哉

彼方

一コモトール官名上陸ニテモ別ニ人數ハ相殖不申候

彼方

一此度種物數種持渡候間追々植付可申候

此方

一風土モ違候事故生育方モ如何可有之哉難計候

彼方

一是迄當港入泊ノアメリカ人死去之節埋

葬イタシ候場所ハ何レノ所ニ候哉

此方

一港之北岸柿崎村玉泉寺境内ニ何レモ墓碑

有之候

右一ノ談判畢一同引取候事

有所不為齊雑録

安政三年丙辰

一千八百五十六年八月廿一日下田港ニ在ル

合衆國フレガット艦サンセント船号ニ於テ

帝國日本之事務宰相閣下ヘ

一吾印度日本支那海ニ於而合衆國水軍提督コ

モドール水師官提督名ゼイムスヤルムストロング

人名之旗下ニ屬スルフレガット艦サンゼレン

ト船号ニ乗レ下田ニ来着セシ趣ヲ貴君ヘ呈ス

ヘキ書翰并其和蘭譯文ヲ贈ル帝國日本之合

衆國コンシユルセ子ラール總領官ニ我任セラレシ事ヲ示スニ付キ大統領吾ニ態々両國人民合衆國プレレデントト

之間ニ存スル懇情ヲ守ランカ為カヲ盡事ヲ命ゼリ

一プレレデント吾ヲシテ彌厚クシテ互ノ好情ヲ固守セシムル事ヲ命セリ

一吾レ前条之願意ヲ不遂シテ止マル事ヲ得ス且帝國之政府ニ正直之懇心ヲ表スルヲ我焦思之願也

一吾モ貴君ニ願フ我官職ニ應スヘキ作法ヲ以テ吾ヲ保護セン為メ公ニ示諭シ給ハン事ヲ

一爰ニ吾レ貴君ニ吾カ恭敬ヲ盡ス

帝國日本ヘ之アメリカ合衆國

一コンシユルゼ子ラール總領官

トウンセンドハルリス

右之通アメリカ文和解仕候已上

辰七月廿一日　立石得十郎印

布有所不為齋雜録

帝國日本之外國事務卓相閣下ヘ

衆國コンレユルセ子ラール總領官ニ我任セラレシ事ヲ示ス

合衆國フレレデンント大統領吾ニ懇々両國人民之間ニ存スル懇情ヲ守ランカ為力ヲ盡事ヲ命ゼリ

一フレレデント統吾ヲレテ彌厚クレテ互ノ好情ヲ固守セレムル事ヲ命セリ

一吾レ前条之願意ヲ不遂レテ止マル事ヲ得ス且帝國之政府ニ正直之懇心ヲ表スルヲ我焦思之願也

一吾モ貴君ニ願フ我官職ニ應スヘキ作法ヲ以テ吾ヲ保護セン為メ公ニ示諭レ給ハン事ヲ

一爰ニ吾レ貴君ニ吾カ恭敬ヲ盡ス

帝國日本ヘ之アメリカ合衆國

一コンレユルゼ子ラール總領官

トウンセンドハルリス

右之通アメリカ交和解仕候已上

辰七月廿一日　立石得十郎印

布有所不為齋雜録

帝國日本之外國事務卓相閣下ヘ

一フレシデント大統領ヲスストル尊稱トウンセンド
ハルリス人名ニ命シ帝國日本ヘ之合衆國コ
ンシエルセ子ラール總領官タラシメ候趣吾レ
之ヲ貴君ニ述ブ右之事情ヲ盡ク解知シ給フ
事ヲ願フ
一我又願フ貴君之意ヲ以テシストル尊稱ハルリ
ス人名宜シク尊ヲ受ケ政府ノ為ニ述ル所ノ諸
事ヲ信用シ給ハン事ヲ且他之諸州ニ於テコ
ンシエルセ子ラールヲ待ツ作法禮節ニ齊シ
ク施シ給ハン事ヲ

一此ニ吾カ好意ヲ以テ貴君ニ恭敬ヲ盡ス
千八百五十五年八月廿二日皇國安政二
卯年七月十二日ワシントンヨリ別府ニ於テ
右之通亜墨利加文和解仕候以上
辰七月廿一日
右有所不為齋雜録
アメリカ合衆國コンシエルセ子ラール總領
官ヨリ帝國日本之外國事務宰相ヘ呈スル
書翰之譯文

千八百五十六年八月廿一日皇國當辰七月廿一日下田港ニ在ルアメリカフレガット艦サンゼレント船号ニ於テ

一帝國日本之外國事務宰相閣下ヘ

一吾レ印度支那日本海ニ於テ合衆國水師總督アトミラール官名セイムスウワルムストロング之旗本ニ屬レ渡航スルフレカット艦サンゼシント船号乘リ下田来着之趣ヲ貴君ニ述ヘ且アメリカ合衆國政府之セケレタールス官名ヨリ貴君ニ呈スル書翰ヲ送リ帝國日本ヘ之アメリカ合衆國之コンシエルセヲラール總領官ニ吾カ任セラレシ旨ヲ和蘭譯文ヲ添ヘ述ルナリ

一合衆國フレシデント大統領吾レニ心力ヲ盡シテ能ク両國之間ニ存スル懇情ヲ守ルノ諸事ヲ為シ時々新ノ所置ヲ施シ此両國之人民之間ニ於テ互之厚意ヲ保固スル事ヲ命セリ

一吾レ前条之願意ヲ遂スレテ止事能ワス且此國之政府ニ懇情ヲ表スルハ吾カ燃ル如キ志願ナルヲ述フ

一爰ニ願フ公ニ示諭シ我官職ニ應スヘキ作法
ヲ以テ保護シ給ワン事ヲ
一吾レ爰ニ貴君ニ我尊敬ヲ盡スノ意ヲ述ルナ
リ

帝國日本ヘ之アメリカ合衆國
コンシエルセ子ラール 官名
トウントハルツス 名判

右ハ前条之真譯ナリ

アメリカコンシエル官の通辨官
ウエーエスヒユースケン人名

右之通蘭文和解仕候以上

辰七月廿一日　立石得十郎印

千八百五十六年八月廿一日 皇國當辰七月廿一日
下田港ニ於テアメリカ合衆國コンシ
エル官セ子ラール 官名
江戸ニ在ル外國事務宰相閣下ヘ

右有呼不為齋雜録

アメリカ合衆國政府之セケレタートリス 官名
ヨリ帝國日本之外國事務宰相ヘ呈スル書
翰之譯文

一フレレデント大統領トウンセントハルリス人名
ニ命シテ之ヲ帝國日本ヘ之アメリカ合衆國
コンシユルゼ子ラール総領官ニ任セシメシ趣
吾ヲ貴君ニ述ヘ且前条之趣ヲ宜シク辨知シ
給ン事ヲ願フ
一我又貴君ニ願フヘールハルリス尊稱人名宜シク
尊ヒヲ受ク貴君ニ人名政府之為メ述ル
所之諸事ヲ信用シ他國ニオイテコンシユル
ゼ子ラール総領官ニ許ス處之作法ヲ施シ禮節
ヲ行ヒ給ワン事ヲ

一吾レ爰ニ貴君ニ我好意ヲ以テ尊敬ヲ盡ス旨
ヲ述ル也
ウエーエルマルセイ人名名判
千八百五十五年八月廿一日安政卯年七月廿二日ワ
ストンシントン之別府ニ於テ
右者前条之真譯ナリ
亜墨利加コンシユル館之通辨官
ウエイビスケン人名
右之通蘭文和解仕候以上
朱辰七月廿一日朱立石得十郎印

本文和解一覽仕候處相違無御座候

森山多吉郎

同文言

伊東貫齋

千八百五十六年八月廿一日皇國當辰七月廿一日下田港ニ在ル合衆國フレガット艦サンセシント船号上ニ於テ下田鎮臺ヘ

一此フレガット艦サンセシントハ印度支那日本海ニ於テ合衆國水師之總督コモドール水師提督之官名ペイムスアルムストロング人名之旗下ニ屬スルモノニシテ此地ニ来リシハアメリカ合衆國之コンシユルゼネラール總領官ヲ帝國日本ニ上陸セシメンカ為ナリ其官職ハ吾カ任セラレル處ナリ

右條幸ヒニ貴君ニ告述ス

吾又貴君ニ一書ヲ贈ル此書ハ帝國日本之外國事務宰相ニ呈スルモノニシテ願クハ之ヲ成丈ケ速ニ江戸ニ送ル事

此ニ貴君ニ吾カ懇篤恭敬ヲ表ス

帝國日本ヘアメリカ合衆國コンレユルセ子ラール總領官トウンセントハルリス

右之通亜墨利加又和解仕候以上

辰七月廿一日　立石得十郎

右有所不為齋雜録

千八百五十六年八月廿一日皇國當辰七月廿一日下田港ニ在アメリカ軍艦フレガットサンゼレトシ船号上ニオイテ

下田鎮臺ヘ快ヲ

一軍艦フレカットサンゼレント船号ハ印度支那日本海ニ備ヘルアメリカ水軍之總督アトミラールゼイムスアルムストロング之旗下ニ屬シテ渡航スルモノニシテ此地ニ渡来セシハアメリカ合衆國之コンレユルゼ子ラールヲ帝國日本之陸上ニ停留セシメン為ナリ其官職ハ吾任セラレシ處ノモノナリ

右之條々貴君ヘ告述

一我又貴君ニ二翰ヲ贈ル是ハ帝國日本外國事

務宰相ニ呈スルモノナリ願クハ之ヲ成丈ケ
速ニ江戸ニ送ル事ヲ
此ニ貴君ニ吾カ懇篤恭敬ヲ表ス
帝國日本ヘ亜墨利加合衆國コンシエルセ
子ラール　トウンセンズトハルリス名判
右ハ前文之真譯ナリ
亜墨利加コンシエル館之
一　通辨官　ウエイヒエスケン

右之通蘭文和解仕候以上
辰七月廿一日　立石得十郎　印

右有所不為齋雜錄

有所不為齋雜録 抄

安政三丙辰年間

九

安政三年丙辰

丙辰七月

大和守殿

亜墨利加蒸氣船壹艘入津之儀申上候書付

岡田備後守

昨廿一日未刻頃武山遠見番所合砲相聞無程異船壹艘入津致候段湊番所ヨリ注進有之候ニ付支配向之者并通詞差遣シ立會御勘定方御目付方罷越来意相尋候處亜墨利加蒸氣船ニ而十ヶ月

以前本國出帆所々航海之上當港入津致候由尤
マモトール官名アルムストロンク人名并當港可罷
在官吏其余士官水夫等貳百五十四人乘組罷在
今廿二日一同上陸致面會度段申聞猶横文字書
附三封内貳封ハ政府壹封ハ私共ヘ差出シ候ニ
付受取罷歸候旨支配向之者等夫々申聞右書付
貳封之義寫ハ差出シ不申候得共此上應接之心
得ニモ可相成哉ト兼而被　仰渡之趣ヲ以外壹
封一同和解為仕候處何モ官吏差置方之義ニ有
之右ハ先達而中御沙汰有之次第等厚差含猶々
說得及候積リ御坐候尤今日於御用所面會之上
應接之模樣等追々可申上候樣可仕候得共先別
紙横文字書付并和解并對話書相添取アヘス此
段申上候以上

七月廿二日

千八百五十六年八月廿二日

下田港ニヨイテ

アメリカ合衆國コンシユル官

ゼ子ラール總領官

下田鎮臺江

千八百五十六年八月廿二日皇國當辰七月廿一日下田港ニ在ル合衆國フレカツト艦サンヤシント船号上ニヲイテ

下田鎮臺江

一此フレカツト艦サンヤシント船号ハ印度支那日本海ニオイテ合衆國元帥之總督コモトール水師提督官名セームス。アリムス。ロンク人名之旗下ニ屬スルモノニシテ此地ニ来リシハアメリカ合衆國之コンシエルセ子ラール總領官ヲ帝國日本ニ上陸セシメンカ為ナリ其官職ハ吾カ任セラレシ所也

右條幸ニ貴君ニ告述ス

吾又貴君ニ二書ヲ贈リ候此書ハ帝國日本之外國事務宰相ニ呈スルモノニシテ願ハクハ是ヲ成丈速ニ江戸ニ送ル事ヲ此ニ貴君ニ吾カ懇篤恭敬ヲ表ス

帝國日本ヘアメリカ合衆國

コンシエルセ子ラール總領官

トウシセント。ハルリス

右之通アメリカ文和解仕候以上

辰七月廿一日　立石得十郎印

帝國日本之外國事務宰相閣下江

一フレンテント大領総シストル尊称トウンセント。

パルリス人名ニ命シ帝國日本江之合衆國コンシユセヲラール総督官タラシメ之趣意吾レコレヲ貴君ニ述フ右事情ヲ宜ク辨知シ給フ事ヲ願フ我又願フ貴君之意ヲ以ミストル尊称パルリス人名宜シ尊ヒヲ受政府之為ニ述ル所之諸事ヲ信用シ給ン事ヲ且他之諸州ニ於テコンシユルヲセヲラールヲ待法作法礼節ニヒトシク施シ給ン事ヲ

一此ニ吾カ好意ヲ以テ貴君ニ恭敬ヲ盡ス

ウ井ユルメルシ人名判

千八百五十五年八月廿二日　皇國安政二卯年

ワスシントンノ別府ニオイテ

右之通アメリカ文和解仕候

辰七月廿一日　立石得十郎

有所不爲齋雜録

都ヲ彼方言葉
一字下ケ一ニ
ニ下用断

安政三年丙辰

一七月廿五日巳半刻岡田備後守御用所ヲイテ亜人コンシユル官名ハルリス人名等江及對話候趣左之通リ

備後守

一大統領者相變義無之哉

ハルリス

一堅固ニ罷在候

都ヲ彼方言葉
一字下ケ一ヒ
ニ下用断

安政三年丙辰

一七月廿五日巳半刻岡田備後守御用所ヲイテ亜人コンシユル官名ハルリス人名等江及對話候趣左之通リ

備後守

一大統領者相變義無之哉

ハルリス

一堅固ニ罷在候

同

歴史課

一御不快如何ニ御座候哉
備後守
一全愈ニハ無之候得共初而之面會ニ〻押而罷
出候
同
一官吏ニハ炎暑之砌無恙渡来大慶存候
ハルリス
一難有奉存候今日ハ拝顔大慶仕候
備後守
一船將ニモ無恙大慶ニ候

船將ヘル
一難有奉存候
備後守
一士官一同無事大慶存候
船將四人
一一同御目通リ仕難有奉存候
備後守
一通辨官ニモ無事大慶存候通辨之義ニ付而ハ
彼是煩勞之義可有之大儀之事ニ存候
通辨官

一難有奉存候

若菜三男三郎

一三男三郎ハ當奉行支配組頭ニ而奉行ニ差續時務取計候義故向後屢面談之義可有之候船

一將其外モ無恙大慶存候

ハルリス

一初而拝顔難有奉存候

備後守

一盃未之茶菓子可被参候

同

一十ヶ月以前本國出船之由是迄ハ何方ニ被罷居候哉

ハルリス

一英吉利支那交趾印度江立寄當湊ヘ渡来仕候

備後守

一此品乍軽少持合候間官吏船將通辯官ヘ遣シ申候士官之義ハ人數モ相分兼用意モ不致候間何レ後刻相贈ベク候

ハルリス

一一同難有頂戴仕候

一備後守

一緩々休息可被致候自分モ一ト先退坐尚改而談判可及候

ハルリス之外入来

一今日ヨリ四日五日両日之内船中ヘ御請待申度旨提督申出候間御光来被成下度候

一備後守

一無差支候間可相越猶治定ハ前ヨリ可申遣候

ハルリス

一船中修覆モ仕候間御入之日限尚差定申上候

一様可仕候

一備後守

一先刻之發砲ハ祝砲ニ而候哉

ハルリス

一私今日上陸ニ付右ヲ祝シ發砲致義ニ御座候

一備後守

一久々ニ而砲聲ヲ聞快存候

ハルリス

一船中御入之節ハ猶發砲仕候

一備後守

一其節ハ乘船之上點砲之式一見致シ度差支無之哉

ハルリス

一船中江御入之節ハ放砲之手續并蒸氣船之仕揖々等入御覽可申候

一備後守

一退座致ス間緩々休息可致候

再席

備後守

一足痛ニ而長座相成兼候

ハルリス

一御足痛御大切ニ可被成候

三男三郎

一森山多吉郎義ハ當奉行手屬候者ニテ和蘭陀語ハ心得候間引合候義有之候節ハ直蘭語ヲ以揖合可及候此段申入置候

一多吉郎官吏其外江挨拶致ス

備後守

一此程差出候政府江之書面貳通共直ニ差立候且自分ハ之書面熟覽委細兼知致シ候猶是談

判可致候

ハルリス

一御受取相成候趣兼知仕候右之義ハ何日頃ヨリ何方ニ而御談判可被下候哉船中ニ而何可申哉

備後守

一申立候義有之ハ可兼候

ハルリス

一今日ハ御招被下候義ニ付諸事他日御揖合可申上候

備後守

一兼知致候自分モ可申談候ヘ共三男三郎并多吉郎ヲ以モ追々可及揖合候

ハルリス

一明日御談判仕度場所ハ何方ニ而宜候哉

備後守

一其節自分出席不致候間委細之義三男三郎ヘ可被談候

ハルリス

一兼知仕候

同

一御足痛之趣ニ候得ハ御着座御述惑ニ可被為在別段申上候義モ無御座候間最早退散可仕候

備後守

一仁兼未有合之酒飯サシ進候間今暫被相待候

酒肴出ス

ハルリス

一御料理至極結構ニ御座候参上前一同食事致候ヘ共余リ美味ユヘ強而頂戴仕候

備後守

一差撰リ候義ユヘ不行届候緩々可被給候

ハルリス

一交趾國ニ而条約取替之節日本之塩鷄卵ト申モノ初而給候事有之候至極美味ニ存候

備後守

一塩鷄卵ト申モノ一向不心得候

ハルリス

一長崎表ヨリ仁浦ヘ持越候品之由ニ御坐候

同

一御當地寒氣如何ニ御座候哉
備後守
一寒氣ハ先緩ク候得共冬分ハ兎角烈風有之困
リ申候
ハルリス
一氷ハ如何ニ御座候哉
備後守
一格別之義ハ無之候
ハルリス
一左候ハヽ自國ノ冷氣ト申位ニ而寒氣トハ難
申候
同
一當節之所ニテハ至極氣候宜敷所ト存候
同
一種々御料理頂戴仕難有奉存候最早御暇可申
上候
備後守
一麁末之飯進度候間暫時可被待候
ハルリス
一何時迄罷居候而モ差支無御座候得共御足痛

之義故御迷惑ト奉存候

同

一御飯モ結構ニ御座候日本ニ而ハ何國之米上品ニ候哉

備後守

一國々耕地之模様ニ寄善悪差定難申候

ハルリス

一日本ニ而ハ水田ニ植付候哉私此度持越候米ハ水氣無之所江植付候而モ生熟致シ候

備後守

一當方ニ而モ陸穗ト唱畑江植候米有之候不然農民多クハ作リ不申候

ハルリス

一實ハ試之為ニ持參候間御植付可被下候

同

一自國海軍之士官何レモ政府之命ニ而諸國之種物持返有益之品ハ植付申候又自國之物モ同様他國江植付候事ニ御坐候

備後守

一種物望ニ候ハヽ可被申聞取調可差遣候

ハルリス

一難有奉存候

同

一提督ヘルリ持帰リ候種物至極土地ヘ合繁茂致シ候品モ御座候諸方ヨリ人々持帰リ候間諸國之草木類自國ニハ澤山御座候

備後守

一船中ニ而日々調練等有之候哉

ハルリス

一一日壹度ツヽ調練仕候尤未熟之モ之共不省々三度ツヽ習練為仕候

同

一御組頭ハ御奉行船中ヘ御入之節御出可被下候

備後守

一召連可申候

ハルリス

一森山多吉郎ハ御當地在住候哉

備後守

一在住ニハ無之御用次第出府致候義モ有之候

ハルリス

一其節ハ困リ可申事ト存候

同

一御奉行御入之節御同人ニモ御越可被下候

備後守

一呂連可申候

同

一船中江罷越候節支配向其外呂連一覽為致候

而モ不苦候哉

ハルリス

一御召連ニ而聊差支無御座候

同

一船中修覆モ仕候間今日ヨリ五日目御入可被下

候

備後守

一五日目ハ當方差支之義有之候

ハルリス

一左候ハヽ六日目御入奉願候

備後守

一兼知イタシ候

一ハルリス

一同日四ツ時ヨリ御越可被下候

備後守

一茶之味ハ唐國之産ト相替義無之哉

一ハルリス

一此御茶ハ隨分結構ニテ余程味密ニ候

同

一今日ハ一同御馳走頂戴難有奉存候猶他日御面會可仕折角御機嫌克可被為在候

備後守

一初而之面會早々之事ニ候折角御厭候様存候

右ニ而對話相濟亜人一同退散

有所不為故雜録

安政三年丙辰

七月二十六日

亜人對話書

表文ニ付テ

支配組頭若菜三男三郎調役勤方森山多吉郎

一同出役合原伊三郎宍戸勘太夫同下役服部健

藏内田金藏通詞立石得十郎為立合御勘定笹

本徇作御徒目付高澤鋏次郎御普請役立石弘

太郎御小人目付堀井鋏藏三浦銈之助御用所

ヘ罷越亜國コンシユル官ハルリス人名ヘ對話

之趣左之通

此方

一昨日ハ初而面會併早々ノ事ニ付被相替義無之大慶存候拙者義モ唯今罷越候間其許ニモ暫時休息可被致候

彼

一無御構御休息可被成候

再席

彼

一御奉行板御不快如何ニ御坐候哉

此

一快ヨ少候

彼

一私方政府之命ヲ受今度此地ヘ罷越候ハ両國交情彌厚致候為ニ御座候

此

一兼知イタシ候官吏ニハ此度直ニ止宿罷在候心得ニ候哉

彼

一條約之趣モ有之候間當節直様止宿之心得ニ御座候

此

一官吏當所ニ差置候儀ハ條約モ有之此方ニオイテモ兼知致シ居候義ニ候得共右ハ往々両國ニオイテ差支之節有之節ハ猶談判之上差置候積當時之處ニ而ハ入港之船ニ給シ候薪水食料等ハ勿論其他諸欠乏品等應乞辨シ候丈ケハ渡方等モ取計遣候義ト強而差支候節可有之共不相心得且其國ニ而自然差支之義有之官吏不差置候而不相叶義モ有之候ハヽ是又其節使節等差越懸合可有之ト存居候ニ付官吏差置候談ハ未無之候

彼

一自國政府ヨリ官吏差越候趣意ハ不都合之義有之ト申義ニテハ無之不都合之義無之樣且渡来之船之法則ヲ相正シ可申為ニテ御座候

此方

一此方ニオイテ官吏差置候儀ハ只今申述候通差支有之節ニ至リ猶懸合有之事ト心得居且當所之義開港以来間モナク津浪ニ而市店其

外悉ク流亡一時退轉ニ及候ヘトモ一旦其國之船々入港之義相約候ニ付田復方等政府ニオイテ格別御世話有之當御用所之義モ其筋取扱候場所ニ付速ニ取立入津之船々ヘ給スル所之食料其外無差支様取扱候義ニ而奉行等之居所ハ未タ普請中ニ有之其上兼知モ可有之旧冬江戸表大地震其外近國同様之災害不少國家之多端申様モ無之人心穏カナラサル時節モ可有之間前条之次第篤ト勘辨之上先見合候義ハ相成間敷哉

彼

一家ハ同様ニテモ不苦間退而館舎取建候迄借受申度尤家賃等夫々相辨可申候

此

一右ハ通辨違ニハ無之哉館舎取建之義ハ勿論其外トモ當節柄何分不行届間斷ニ及候

彼

一御當所御混雜之義ニ候得ハ致シ方無之候乍公國命ヲ受参リ候事故御當所御取片付ニ相成候迄江戸表ヘ罷越相待可申候

此

一只今申入候通當所ニ不限江戸表其外近國重子々ノ災害人心不穩ハ何地モ同様之義且江戸表之義ハ國中之諸事取扱候場所故尚更多端殊ニ國法モ有之被罷越候義ハ難相成候兼而政府之命モ有之回復中新規之義萬事差置候間暫猶豫被致度條約之趣等拒ミ候譯ニハ無之不慮之天災イタシ方無キ時節深ク推察可被致候

彼

一私ニ オイテ解兼候義有之右著私共ニ両輩當所ニ止リ候迚政府ニ オイテ混雑相増ト申譯ニハ有之間敷候

此

一官吏差遣候迚夫カ為ニ混雑増ト申義ニハ無之併一昨年来其國之船ニ入津之度々薪水食料等給シ遣シ候上ハ方今俄ニ其許等被参候義トハ不存且二百年来之鎖國其國之為ニ開港イタシ今又新ニ官吏差置ニ付而ハ夫々非常之所置モ有之旁此節柄不行届候間自然右

懸合等有之候ハヽ其義ニ不及様可申断旨兼
而政府ヨリ命ニ付斯談判ニ及候義ニ候
彼
一私義政府之命ヲ受此地ヘ罷越候事故御談之
趣兼知イタシ候得共政府之命變シ候義難相
成候
此
一尤之事ニハ候得共當奉行モ政府之命ニ依テ
万事所置致ス故斯ノ申候則政府之命ニ依
テ也政府之命ヲ重ンシ候ハ何レモ同様之事
ユヘ何様ニモ推考可有之候
彼
一當所ニ而御取扱出来兼江戸表ヘ被仰立候義
有之節ハ往返幾日相懸リ可申哉
此
一奉行ハ政府之委任ヲ受諸事機ニ臨ミ所置ス
ル丈ケ之威權素ヨリ有之候間今日拙者ヨリ
及應接次第等直ニ申立候譯ニハ無之候尓伝
事柄ニモ寄候義此度之義迚モ丈々論談ヲ盡
シ候上品ニ寄申上候義モ可有之候得共下知

之有無遲速等ハ差定難及挨拶候

彼

一只一事相伺度政府ヨリ私止宿之義不相成ト

ハ御趣意ニ候哉

此

一右尋之義今般之義ニ候哉

彼

一官吏参リ候節上陸ハ次而不相成ト兼而御下

知有之候哉

此

一左ニテハ無之官吏差置候義ハ條約ニモ有之

事故自然不差置候而不相成候節ニ至リ候得

ハ評決之上差置可申當時直ニ在任ト申義ハ

前条之差支ユヘ難相成一時上陸之義ニ候得

ハ既ニ先日船中ヘモ申入候通リ之義ユヘ王泉

寺被相越候而不苦候

彼

一仰之趣ハ委細承リ申候併私義此地ヘ参リ候

上ハ直ニ上陸止宿可致旨國命ニ付相背候義

ハ難相成候段々仰ヲ蒙候而ハ實ニ御氣之毒

ニ存候

刺限ニ付切飯差出一旦退散

一三席目

此方

一只今被申入候趣ニ而ハ其許モ政府之命ニヨリ被参候事故仮令當方之談向尤ト被存候トモ一ト通リニ而政府之命ヲ拒ミ枉ケ候義ハ難相成段ハ委細推察イタシ候尓去昨日申入候趣氣之毒ト被存候ハヽ右事情ヲ察シ得ト勘辨被致猶追々可及談判候

一彼

一来ル日曜日八月三日ニ當ル ニハ蒸氣船出帆候間其以前止宿所差定手道具等陸上ケイタシ申度候

此

一委細之義兼知イタシ候ヘトモ一存ニ而難決一應奉行ヘ申聞猶面談可及候

一彼

一實ハ直ニ御決着相成候義ト存候處御奉行ヘ御伺ニ相成候而ハ夫迄手間取可申何卒速ニ

御挨拶可被下候

此

一先刻ヨリ申入候通今般上陸之上直ニ在任ト
ノ義ニ候而ハ挨拶難及一時差支ニ付上陸ト
ノ義ニ候ハヽ既ニ過日船中ヘモ申入候通リ
之次第ヱヘ差支之義無之候

彼

一上陸所ハ何方ニ候哉

此

一玉泉寺ハ是迄亜人休息所ニ定置候義ニ付同
寺ヘ上陸被致候様存候尤定住ト申義ニハ難
聞届候

彼

一玉泉寺ハイツレノ所ニ候哉一見之上止宿可
仕候官吏在住之居所凡何ヶ月程ニ而普請出
来可致哉

此

一在住之場所ハ先刻申入候通リ之次第ニ而當
節差定カタヾク玉泉寺ハ先日被罷越候亜人之
墓所有之所ニ而候

彼

一玉泉寺ハ柿崎村之由官吏ハ下田ニ居付候積
一リ江ハ同寺ニ而ハ不都合ニ候

此

一追而官吏差置場所差定候節ハ右等之處談判
可及候得共一時之義ニ候得者同寺ニ而可然
一義ト被存候殊ニ外寺院之内可差置處有之候
得ハ格別何レモ水災後大破差向可然處無之
且昨年中モ亜人等暫滞留イタシ候寺ノ義ニ
ハ其段申入候

彼

一官吏ハ位階有之モノニハ上陸之上ハ其職ニ
應シ御取扱有之候様イタシ度候

此

一兼知イタシ候日本ニ而是迄官吏差置候義無
之ニ付既ニ先日奉行ヘ差出候書ニモ諸國ニ
於テ官吏取扱之法式有之候ニ付右ニ准シ取
扱候様ニトノ趣ニ候得共右之取扱法式當方
ニ於テ不相辨候身柄之モノト兼候ニハ夫丈
ケ之礼ハ施シ可申候得共法式差定候義ハ相

成兼候

彼

一官吏御取扱御丁寧ニ候得共官吏之位階御存無之故別人ト無差別被思召候樣ニ存候

同

一一旦條約相濟候上条約中官吏之儀御斷被成候ハ自國政府ニオイテ如何心得可申哉

此

一官吏之義條約之表ニハ十八ヶ月之後不都合之義有之候ハヽ可差置ト有之候得共差置候節ハ別段使節等有之談判之上取計候事ト存候所不意ニ被參候ユヘ居所等之設モ無之依

一公一時ニ差支之趣ニ付見苦敷候得共王泉寺ヘ上陸可致ト懸合ニ及候義ユヘ右之譯柄熟考可被致候

彼方

一条約ニ十八ヶ月後下田ニ官吏差置ト有之上ハ既ニ治定之事ニ候

此

一此方ニテハ治定之事ト ハ不存候間設ヶモ不

致且不時之變災等ニ付當節急ニ設ケ候義モ
難相成候
彼
一両國政府無據義有之ハ官吏可差置ト条約ニ
有之自國ニヲイテ無余儀次第有之ニ付此度
差越候事ニ候
此
一其政府ニオイテ差支之義ハ素ヨリ當方ニテ
知ルヘキ謂無之自然官吏不差出候而不相叶
節ハ前以懸合之上差定候義ト存候間差付被
相越候而ハ前約通リト モ難申候
彼
一官吏上陸之上ハ其居所ヘ平日旗ヲ建猥ニ人
之立入ヲ不許程之官職ニ御座候間右等之差
別ハ御心得被下度候
此
一右身柄有之モノニ候ハヽ相應之取扱可有之
猶奉行ニ可申聞候
彼
一明日四ツ時頃ヨリ此御席ヘ罷出猶御面會仕

一度出帆モ差急候事故何事モ急速相決シ申度
候
同
一當御席位之義普請何ヶ月程相懸リ出来致ヘ
ク哉
此
一今日申立之趣ハ委細奉行ヘ申聞ヘク其許ニ
モ尊勘考可有之猶明日談判可致候
同
一當席普請ハ凡壹ヶ年モ相懸リ可申候

彼
一柿崎村玉泉寺之義ハ自國之政府ヘ對シ何分
止宿相成兼候間御斷申上置候
此
一奉行ヘ申聞猶可申談候
右ニ而談判畢

安政三年丙辰

七月廿七日

下田奉行ヘ

今般老中ヘ亜人ヨリ差出候書翰之儀ハ兼而各ヘ相達置候趣モ有之事故別段差圖返答ニ不及

右書翰ハ其儘差戻候間應接之都合モ宜候ハヽ其段可被申越候早々差戻ニ而可有之事

有所不爲齊雜録

井上清直 至下田應接ニ付

安政三年丙辰

大和守殿

亜墨利加官吏ヘ及應接候趣申上候書付

井上信濃守

岡田備後守

昨三日御用所ニオイテ亜墨利加官吏其外コモトール等ヘ面會ニ及應接候ニ付則右對話書壹冊差上申候然ル處官吏差置候義ニ付而ハ兼而被仰渡之趣モ有之候間両人トモ種々力ヲ盡シ

及説得候得共何分條約之趣ヲ以彼國政府之命ヲ受罷越候義ニ付仮令此方申分尤ニ存候ト雖私ニ帰國ハ難成旨申立強而及詰論候ハヽ却而御為相成間敷哉ニ奉存候間治定之儀ハ勘辨之上猶及談判候積先以仮ニ滞留可罷在旨申談柿崎村玉泉寺ヘ上陸之儀差免猶追々可申上候得共先ツ對話書壹冊相添不取敢此段申上候以上

八月四日

有所不為齋雑録

安政三年丙辰

波耳利士喫書奉行ヘ

展九月十六日大和守啟佗山八十次郎ヲ以

御渡

亜墨利加官吏ヨリ差出候横文字和解

差上候儀申上候書付

井上信濃守

岡田備後守

亜墨利加官吏ヨリ横文字書付差出和解為致候處別紙之通御座候間右和解一冊差上申候尤岩

瀬修理ヘモ申談追々及應接候積御座候依之此段申上候以上

辰九月

下田鎮臺足下ニ呈スル書翰譯文

千八百五十六年九月廿五日下田ノ合衆國コンシエルゼネラール館ニオイテ

下田鎮臺足下

一今月十三日貴君ニ呈セシ書翰ニ就テ使者ヲ以口上ノ返答ヲ得タリ

一予願フハ以来我カ書翰ノ返答ハ書面ニテ達シ給ン事ヲ其故ハ貴君ニ明ラカニシテ再ビ述ルニ及バサレハナリ

一右書面ニテ返答ノ事ハ前日高官林井戸伊澤鵜敬等ヨリコモトール官名ベルリ人名ニ屢々送ラレシ時之同様ニ處決アルヘシ

一銀錢ト日本通用銀ト稽ル事ノ我カ願望ノ返答ハ左ノ二條ニ由ルベシ

第一條

條約中亜墨利加人ニ送ル諸物ハ政府役人

ヨリ渡シ其價モ又役人ニ拂フベシ

第二條

亜墨利加人ニ通用銀ヲ渡ス事ハ日本ノ掟ニヨリテ禁スル事

一予答フ條約ニ因テ総テ亜墨利加人日本ニ来レハ食料其外ヲ政府役人ノ手ヲ経テ得ル事ハ實ナリ然レトモ此規定ハ寔ニ彼邦ヨリ事ヲ計フ為メ在任スル所ノコンシユルゼネラル公ニハ聊関係ナシ故ニ賢良ノ世界一統ニ行レル國法ニ違背スル事ナクシテハコンシ

ユルヨリ除ク事ヲ得ヘカラサル法則ヲ備ヘリ

一此法則中ニ其人其家及ヒ其吕仕フ就而卑メラレサル事アリ

一爰ニ緩ナルノ仕法ニテ自分及ヒ召仕或ハ勤仕スル者ヲシテ随意ニスル事ヲ得決シテ無官ノ人ヲ無理ニスル法則ニ因リテ閉ル事ナカレ

一予是迄他ノ術ヲ用ン事ノ役アラサリシ故必用ノ物ヲ政府役人ノ手ヲ経テ得タルアリ然

レトモ今月三日ニスコウフルニコール鎮臺次等ニ告シハ後人ノ手ヲ經テスル事ハ唯當分ノ所置トセン事ヲ今爰ニ再ヒ述ルハ速ニ任所取建ラレ諸等ノ職人退ハサレ當時我ニ仕給判ヲ拂フモノヽ外餘分ノ人ヲ用ル事ヲ斷ラン事ヲ

一日本通用銀ヲ亜墨利加人ニ渡サレサル事條ニ就テ予答フ此ノ如キ法則ハ前ニ述シ譯柄ニ因リテコンシユルゼ子ラールニ関係スル事ナシ

一或人予ニ告シニハ日本銅錢ヲ何ツカフレガツト船サンゼシント船ノ士官ニ御用所ニヲイテ稽ヘ與ヘラレシ事ヲ亦日本役人モ掟ニ從ハザルナラン

一爰ニ述ルハトルラル貨名ノ位一般ニ日本人ニ知レサルノ間ハ予必用ノ物件ヲ得ル事能ハザラン事ヲ予夫ヲ買フ為ニ日本ノ通用銀ヲ得サレハ也

一尚爰ニ一條アルハ最初下田ニ於テトルラルヲ壹分ニ筭當セリ是ハ大抵壹分三箇ノ量目

アリ

一稍舘ニ於テトルラルハ真ノ位ヲ以テ壹分三箇ニ取レタリ

一予我カ政府ヨリ命セラレシハ日本政府ニ於テ此事ニ心ヲ付ラレン事ヲ且日本政府ノ廉直正潔ナル事ニ就テ我カ政府證セシハ疑フ事ナリ此不正ヲ直ニ改正アラン事ヲ

一貴君予ニ約セリ我カ必用トスル處ノ諸品ハ日本人ト同様ノ價ヲ以テ得ン事ヲ今予此約一束ヲ遂ン事ヲ貴君ニ願フナリ其故ハ一トルラル唯壹分ニ通用スルノ間ハ日本人ト同價ニテ拂フヘキ處ニ予買フ處ノ諸物ニ三倍多キ價ヲ出ス事ヲ望ムニ當レリ

一予貴君ニ願フ日本ノ政府外國ト條約ヲ結ヒ自然ニ條約取極ヨリ生ル處ノ諸民ノ掟ニ從ヒ行レシト勘考アラン事ヲ且貴國掟ノ二三條故ニ予希フ次條ノ事ヲ容ラレン事ヲ是ハ日本ノ全權ヨリコモトールヘルリニ送ラレシ書翰中ニアリ全權堅ク曰我國ニ於ル古キ掟ニ隨從スルハ我等ニ於テ今ノ時勢ニスレハアシ

カルヘシトユ

前条ノ趣尊敬シテ述ル所ナリ

帝國日本ニ於テアメリカ合衆國

コンシユル、ゼネラール

トウンセンドハルリス

右ハ真譯也

ハセイヒユースケン

右之通和解仕候以上

立石得十郎

志筑辰一郎

一 本文随意ト有之候ハ諸買物ヲ氣樂ニスルト申事ニ御座候

日本政府ノ意ヲ勘考イタセト申事ニ無之カ

二 民ニ都合宜敷法度ニ而世界ノ振合立チ居候意ヲ勘考セリト申事

三 本文和解一覽仕候處相違無御座候

辰八月

森山多吉郎

二 本文和解一覽仕候處相違無御座候

辰八月

伊藤貫齋

有所不爲齋雜録

安政三年丙辰

去ル十一日於御用所私共亜國官吏ヽ及應接候趣左之通御座候

一應挨拶畢

官吏

一御面會相願候儀別義ニ無之柿崎村波戸場御修覆之儀最早四ヶ月ニ相成候得共御補理無之右八條約中ニモ有之候場所如何之譯柄而其儘被差置候哉御存慮伺度候

一右波戸場之儀ハ如被見波荒之場所故冬分ハ
容易築立難出来且保チ方勘辨中其許申立ニ
ハ右最寄自然岩ヘ足掛切付候得ハ破壊之愁
ヒモ無之可然旨ニ付先其通イタシ置候
一先頃申上足掛切付之義當分仮之上リ場迄
之心得ニ御座候
一其許ニハ諸州航海モ被致波戸場所築立方種
々心得可有之如何イタシ候ハヽ管便ニ而保
チ方可宜哉
一都而築造方ハ堅固ナルヲ専一トイタシ候

間面直シスル合等之手數ヲ省キ恒合宜凡五
百斤ヨリ千斤程之大石投ヶ込追々築立ニ相
成候得者磐石ニ出来可申候
一何レニモ――一當節ハ潮間不宜候間来三月頃迄
右仮上リ場ニ而据置候而ハ如何
一波戸場之儀ハ條約ニモ有之今日ニモ自國
船之渡来可致哉モ難量右仮上リ場ニ而ハ甚
差支候間何卒早々御取建之儀奉願候
一委細兼知イタシ候
一先頃申立置候金銀量目替之儀最早四ヶ月

一右波戸場之儀ハ如被見波荒之場所故冬分ハ
容易築立難出来且保チ方勘辨中其許申立ニ
ハ右最寄自然岩ヘ足掛切付候得ハ破壊之愁
ヒモ無之可然旨ニ付先其通イタシ置候
一先頃申上足掛切付之義當分仮之上リ場迄
之心得ニ御座候
一其許ニハ諸州航海モ被致波戸場所築立方種
々心得可有之如何イタシ候ハヽ管便ニ而保
チ方可宜哉
一都而築造方ハ堅固ナルヲ専一トイタシ候

間面直シスル合等之手數ヲ省キ恠合宜凡五
百斤ヨリ千斤程之大石投ヶ込追々築立ニ相
成候得者磐石ニ出来可申候
一ツレニモ當節ハ潮間不宜候間来三月頃迄
右仮上リ場ニ而据置候而ハ如何
一波戸場之儀ハ條約ニモ有之今日ニモ自國
船之渡来可致哉モ難量右仮上リ場ニ而ハ甚
差支候間何卒早々御取建之儀奉願候
一委細兼知イタシ候
一先頃申立置候金銀量目替之儀最早四ヶ月

ニモ相成イマタ何等之御沙汰モ無之込入
候義ニ候ハヽ御取調等彼是日數ハ勿論議
論等モ可有之候得共元来正潔之儀申上候
通リ御取計有之候外別段御所置無之筋ニ
付右体御挨拶及遅ニ候段一圓難心得奉存
候

一申立之趣此方オイテハ甚込入候義ニ而國内
之取計ニモ差響候者勿論長崎箱館等都而外
國ヘ引會候場所々ヘモ專ラ關係イタシ候義
故中々一朝一夕ニ治定可致筋ニ無之故追々
延引オヨヒ候

一事實右体之義有之候トモ四ヶ月之日數相
立治定無之ト申義者不審ニ有之畢竟官吏
而已ニ付數月否モ相待居候得共若軍艦二
三拾艘モ渡来之上御引會及候義ニ候ハヽ
迚モ右様時日ヲ費シ碇泊罷在候義ハ有之
間敷イツレニモ此上両三日中ニハ治定之
御挨拶兼知イタシ度奉存候

一仮令軍艦數拾艘渡来之上懸合及ヒ候トモ容
易ニ難辨義者矢張難辨官吏而已ニ而モ應シ

易キ義者速ニ應シ遣シ候儀ハ勿論ニ而金銀
一量目替等之儀ハ素ヨリ平時之治定難致筋ニ
付其段得ト相心得猶心永ニ可被相待尤度々
催促申聞候義モ有之間自分トモ才イテモ精
々勘辨之上此程組頭松村忠四郎并森山多吉
郎態々出府ヲモ為致候ニ付無程及挨拶候様
ニモ可相成ト存候
一右様之儀ニ御座候上ハ最早不日ニ否相分
可申間暫時御待可申上候
一宰相方ヘ密事申上度義有之書面相認一両
日之内差上申候間御差立可被下候
一書面差出次第早速差立可申候得トモ右ニ付
而モ自分共申談度儀有之候
一兼知仕候
組頭初立會方トモ一同退席
一以来御談判仕候節トモ如此外御役人方御
出席無之様仕度候
一夫々規則モ有之右役々相除候義ハ難相成尤
密事等引會之節ハ其時限リ退席為致候様可
取計候

一兼知仕候

一先達而政府ヘ差立候書面御返翰之儀ハ如何ニ御座候哉兼知仕度候

一右書面之義ニ付談判及ヒ度儀有之候處此節森山多吉郎出府罷在巨細之通辨差支候間同人立戻リ候上委細可申談候

一猶申上度儀有之政府ヘ之書面両三日中ニ差上候間速ニ御差立奉願候

一政府ヘ書面差出度之儀ニ候上ハ早々差立可申候得トモ素ヨリ下田於テ外國人ヘ引會之

一義ハ何様之大事ニ候テモ自分共之手ヲ離候義ハ無之政府ヘ書面サシ出候トモ右事件取扱之儀ハ矢張自分トモヘ被任候事ニ付多分御返翰者有之間敷ト存候

一素ヨリ下田ニ關係イタシ候義ニ無之金銀量目替等別段思慮ヲ費シ候ニ者不及義迄御決斷難成程之御任ニ而ハ迚モ御國体ニ拘リ候大事ヲ及御論談ニ儀ハ無詮ニ而殊ニ私義ハ自國官吏之重官ニ付政府執政方ヨリ御返翰可有之儀勿論之義ト奉存候

一金銀量目替等之義ハ仮令官吏直ニ及言上候
トモ國法ハ不及申其節取扱之役ニモ有之容
易ニ御即答抔可有之節ニ無之且官吏ハ其國
重官之モノニモ可有之自分トモモ外國ニ拘
リ候儀ハ下田ニ關係不致事ニ而モ取扱候身
分我國重臣之段ハ勿論ニ付自分共ヲ差置書
面等差出候トモ多分御返翰ハ有之間敷ト存
候

一イツトモ書面差上候間御差立可被下候

一兼知イタシ候

右之通御座候

十二月十一日

有所不為齋雜録

安政三年丙辰

對話書　井上信濃守　岡田備後守

辰十二月

去ル十七日支配組頭若菜三男三郎亜墨利加官吏ヘ及對話候趣左之通御座候

一應挨拶畢ル而

彼方

一脇差而已相帯居候モノ見懸ケ申候右ハ何
様之身分ノモノニ候哉
此方
一町人共之内役所之用向等申付置候モノハ脇
差相帯候義有之右等ニモ可有之哉ト存候
一御役所之御用被仰付候モノニ限リ候哉又
ハ外ニモ脇差而已相帯候モノ有之候哉
此
一町人百姓等平常ハ無刀勿論ニ候得共譬ヘハ
年始ト欤或ハ葬式ト欤廉立義有之節ハ脇差

一昨十六日云々
彼ノ辞ナリ一応
下ケ可然

相帯其餘町人百姓ニ而モ子細有之大小相帯
候モノモ有之差定而ハ難申盡候
彼
一昨十六日通辨官ヒユスケン義立野村邊ヘ遊
歩ニ罷出候途中田畝中ニ而長キ脇差相帯候
モノニ出合候處其モノ甚不法ニ而ヒユスケ
ン往来ヲ妨ケ候ニ付手真似ヲ以相諭シ候得
共更ニ不聞請剰面色ヲ變シ悉ク憤リ候躰ニ
而帯居候脇差ヲ拔可切懸様子ニ驚キ命辛々
逃戻リ申候畢竟遊歩之義帯劔モ不致小筒等

用意モ無之折柄ニ付右体不覚之始末ニ及ヒ候段甚残念ニ而以後ハ夫々用意イタシ候義ハ勿論若右様ノモノ有之候節ハ速ニ打殺シ又蹴散シ候心得ニ候間兼而其段御断申候

一異変之事ニ嘸カシ恐怖イタシ候義察入且兼リ候而モ驚キ候事ニ而右体不法之所業ニヲヨヒテ此最寄市在之モノニ而ハ無之全往来之旅人ニ可有之夫迚モ尋常普通之モノ之所為トハ不被存若シハ狂人或ハ無頼悪徒欤イワヒモ左様之義ハ先昨日一車限リニ而以後又トハ有之間敷遊歩等之節小筒抔用意被致候ニハ不及矢張緩優徘徊可申方可然ト存候

一元来日本人ハ外國人ヲ忌嫌ヒテ本心ヨリ右体之義モ相愛シ候義ニ而仮令此最寄市在之モノ迚モ油断ハ成不申兎ニ角以後ハ小筒等用意イタシ遊歩イタシ候積ニ御座候

一非常之為小筒等用意イタシ候ハ我鎗剣モ同様之義ニ付心次第ニ候得共昨日之車ヨリ俄ニ被構候ニハ及間敷素ヨリ和親ヲ結ヒ候國

柄互ニ無隔意處ヲ以諸事所置イタシ度實ニ
昨日之狂人ハ沙汰ハ決而以後之見合ニハ難
相成候間劔銃等用意之義抔斷有之候迚兼置
候義ハ難成候
一仰之通私共心得之義ニ付此上別段御引合
ニハ及ヒ申間敷候
一當月ハ我國歳末之月ニ而年分之諸拂等勘定
相立候義定式之取計ニ有之就而ハ其許上陸
以來差送リ候諸式食料等之代金其筋懸リ之
モノ取調突合勘定可致尤拂方之義ハ惣而引

會之通金銀双替治定之上夫々可請取候得共
賣込商人共ヘハ御用所ニオイテ立替下々渡
シ候間左樣可相心得候
一突合勘定之儀ハ兼知仕候可相成ハ壹ヶ月
切御勘定有之候樣イタシ度然ル處私買調
候諸式其外食料兵庫雇人足賃銀等之義ハ都
而土地普通之直段ヲ以相辨シ候樣兼而御
奉行衆迄約定申上置候義之處右諸式等悉
ク高價ニ而更ニ普通之直段トハ難心得必
定元直段ヘ御用所ニヲイテ割增相懸差送

リ候義ト無相違甚如何之御所置ト被存候
間其邊委細取調御引會申上候心得ニ御座
候

一月限取調之義ハ兼知イタシ候諸式其外トモ
土地普通之直段ニ而其許ヘ相渡シ候モノ別段
割増等相懸候儀ハ決而無之尤品ニ寄自然高
價之モノモ有之候得共夫以土地直段ニ候上
ハイタシ方無之邂逅高價之モノ有之候迚右
ヲ割増ニトモ相懸候義ハ心得違彼是疑惑ヲ
搆候ハ以之外不都合ニ付左樣之念意ヲ相止

メ取調有之候樣存候

一何樣被仰聞候而モ割増有之段ハ證據モ有
之猶此上諸式直買ニイタシ直段等研究之
上夫々當否之御論談可仕尤其節ニ至リ若
是迄買請候品々直段不相當之モノ有之候
得ハ退而ニ而モ差引勘定相立候間左樣御
兼知可有之奉存候

一官吏ニ候迚猥ニ直買ハ難相成併條約之趣モ
有之市店ニ而相撰候義ハ勝手次第尤諸式ハ
時之相場有之時ニ高下有之候ハ勿論ニ付後

日ニ至リ過テハ諸勘定ヲ増減可致トノ義ハ
甚以不都合之義ト存候
一何レニモ諸式直段等之義ハ別段御引會可
仕候
一諸式勘定而已無之兼而差越置候小間使両人
ノモノ給分未々治定無之右モ當節取極夫々
立替渡シ方取計度就而ハ壹人ニ付給分何程
相渡候積ニ候哉兼知イタシ度候
一日本ニ而右様之モノ給分何程位御遣シ被
成候哉右ヲ兼知夫ヨリハ不減様相渡シ可

申候
一日本人給分之義ハ取束一様ニハ難申述自然
ト仕候人ノ身分又ハ仕候者之身分ニ寄給分
之多寡有之候義勿論ニ而先其許ハ其國重官之
由附而ハ最前被申聞候通ニ小間使之モノモ
平日襠ヲ着シ帯刀ヲモイタシ候モノ相選差
越候儀ニ而是則ト使候人被仕候人トモ夫々
一身分有之候儀ニ付日々立入候水夫或ハ掃除
人之類ヒトハ格別ニ付右等勘辨之上相當之
給分其方ニ而取極可申候

一壹人ニ付壹ヶ月金壹兩相渡候ハヽ不相當之義有之間敷ト存候

一其許召仕居候支那人之内重立候モノ給分如何程遣シ候哉

一是者元来唐語等ニモ熟居格別用辨宜モノニテ殊ニ日本ヘ罷越候義迷惑イタシ候ヲ強而召連候義ニ付給分モ隨而多ク小間使両人ハ僅ニ手廻リ之小用ヲ足シ候迚ニ而言語等モ更ニ不通右支那人引競給分抔可論モノニハ無之候

一支那人之唐語ニ熟シ用辨相成旦迷惑之由申聞候ヲ日本ヘ召連候而別段之義ニ可有之併小間使之者日本用ヲ辨シ又彼等迚モ外國人ニ被仕候義素ヨリ欲シ候筋ハ無之畫ク難澁之由申聞候ヲ強而差越置候義ニ而詰リ趣意ハ同様ニ相聞何レニモ普通奉公人之給分ヲ以可論者ニハ無之迚モ壹ヶ月壹兩ニ而ハ相當致間敷併右ハ當人共ハ勿論親共心得モ可有之義今日自分一存ヲ以治定之挨拶ハ難相成乍去先一ヶ月三兩ヨリ四兩位迄ハ相渡候

様イタシ度ト存候

一左様ニ過當之給分ハ難差出何レトモ彼等相當之所ヲ以取極可申候序ニ相伺度義有之市中ニ而野菜并魚ヲ商ヒ候モノ寺院等ヘ立入候ヲ度々見懸申候何故玉泉寺ニ限リ右商人ヲ入候義無之候哉若御奉行様御差留之義ニハ無御座候哉

一野菜并魚等商ヒ候者共敢而玉泉寺ニ限リ立入候義ヲ差留候義ハ無之依其許最前上陸之砌仮令仮館舎ニ而モ土地之モノ等立入候義ハ一切難相成由申聞候義有之且此方オヨヒテモ外人猥ニ立入候様ニ而ハ自然何様不都合之義可仕哉モ難計彼是揣念之意味モ有之ニ付其許宿寺ヘハ免許ナクシテ立入候義難成段申渡置候義ニ而尤諸式ハ勿論食料等調ヒ方於而ハ是迄之通取計候上ハ右体之モノ不立入候トテ差支ハ有之間敷

一市店ニ而物ヲ換モ荷ヒ商ヒイタシ候モノヨリ買求候モ同様之趣意ニ而差支無之段ハ勿論魚野菜等實ハ何様之品有之候哉不

相辨候間以後ハ立入候様イタシ度見請候
ハヽ呼入候様ニモ可致ト存候
右
一商人等呼入候義強而難成筋モ無之候得共市
店トモ譯違ヒ相對ニ而品物買求候義ハ無用
ニ可致兎角未々心得モ無之モノ共ニオイテ
ハ剛候ニ隨ヒ何様不敬不都合之儀出来致間
敷トモ難申候間後人ヘ相斷調物等致候様可
致候
一心得モ無之未々之者不都合之義仕出シ候
而モ右ハ為差義無之且正直之筋ヲ以取扱
候ニハ聊御揖念之義無之候間御役人等御
立會ニハ決而不及候兎角右御役人等附ケ
被置候ハ囚獄同様之御取扱ニ而甚不快之
義既ニ先日モ御役人等早々為御引拂有之
候様ニ申上候處于今何之御沙汰モ無之右
ハ如何相成候哉
一役人差出置候儀ハ其許土地不案内ニ而諸用
之程難辨勿論ニ付其筋用辨之為且ハ土民等
宿寺内ヘ猥ニ立入如何之義等不仕出ヨフ其

右同断彼ノ詐

外盗賊等非常之警衛ニ有之差出置候義ニ付
仮令其方ニテ差出候ニ不及旨申聞候而モ此
方ニ差支有之上ハ為引拂候義難成候
一夜分ハ一同寐臥被居候様子右ニ而ハ盗賊非
常之警衛ハ出来申間敷且事實之盗難ハ万一
之義ニ而更ニ右等之御心配トハ及不申割増
之盗賊日ニ入候ニテ困リ申候
一非常警衛等之義ニ役人之心得有之其許抵關
係イタシ候義ニ無之且割増之義ハ決而無之
段申聞置候ヲ猶相疑右躰不法之言葉ヲ相發

シ候ハ難心得通辨等之行違ニ候ハヽ格別今
一往可申聞候
一戯ニ申上候迄ニ付御聞流シ可被下候
一近日通辨官天城山ヽ相越候ニ付案内之者差
出可呉且夜ニ入候ハヽ途中寺院等ヘ一宿イ
タシ度由詰合役人迄申立候様兼知イタシ候
天城ハ七里境ニ有之右堺ニ至リ候ハヽ其段
案内之者ヨリ可申聞候間其場ヲ限リ立戻シ
可申尤夜ニ入候而モ止宿之義ハ難成其節之
案内之者駕籠相雇可遣候右ヽ乗立歸候様可

致候

一七里ハ直徑ト相心得候若天城ヲ七里境ト
被仰聞候ハ屈曲里數ニハ無之候哉

一最其通ニ候

一日本ニ而ハ其通御心得被成候哉ハ存シ不
申候得共亜墨利加ニ而ハ直徑ト心得居リ
申候

一其國使節ヘルリ渡来之節巨細引合之上船中
之モノ養生運動之為遊歩イタシ度就而ハ里
數之定メ無之候而ハ不都合ニ付凡其日歸リ
ニ可相成程之里數ヲ以テ度トシ遊歩イタシ
度尤右樣取極候而モ必七里之境迄罷越候ト
申ニハ無之樣申聞右里數治定イタシ候義ニ
而素ヨリ屈曲七里ニ相違無之若直徑ニ候ハ
ヽ其日歸リ公勿論自然養生運動之趣意モ相
立申間敷直徑之由ハ其許覺違カト被存候

一直徑之由ハ兼而兼知イタシ居候得共被仰
聞候趣ヘルリ等申聞候義無之且先日中御
覽ニ入候シヤム條約ハ勿論其餘諸州トモ
皆直徑ヲ以遊歩之地等相定候義ニ付日本

ニ限リ屈曲里數ヲ用ヒ候ト申義ハ次而無之事ニ而旦夜ニ入又者草卧候節止宿休息之儀ハ素ヨリ子細有之間敷カト奉存候

一仮令外國都而直徑ニ候而モ我國ニ而ハ右申入候通最前之引合ハ勿論屈曲里數ニ無之而ハ差支有之其段談判之上治定イタシ候義ニ付今更容易相改候義ハ難出来止宿之儀モ素ヨリ難相成候間イツレニモ案内ノモノ申聞ハ方境ヲ不越若草卧候ハヽ駕籠相用立戻リ候様可致一体外國之極合ニ見合候ハヽ自然窮屈様ニ可被存候得共我國ハ我國之風有之迚モ従来同盟諸州同様ニハ難致都而之事件ニ渉リ候義ニ付篤ト心得居候様イタシ度候

一七里直徑等之義ハ別段改而御引合可申上通辨官天城山罷越候義モ猶勘辨之上申上候様可仕候

一兼知イタシ候

右之通御座候以上

十二月廿一日

有所不為齋雜録

安政三年丙辰

一昨廿二日亜米利加官吏ハルリス儀支配
一組頭若菜三男三郎ヘ面會致度段申立候ニ
付則差遣為及對語候趣左之通御座候
三男三郎并御徒目付高須鑾郎一同罷越通詞ヲ以
右番人相越候趣案内為申入候處三男三郎之
外鋏次郎ハ勿論勤番所結役人等都而無用之
列席ハ堅ク相斷尤一同ニ無之候而ハ面會難
相成ト之儀ニ候ハヽ引會致間敷旨通辨官ヒ

ユスケンヲ以官吏申聞不都合ニハ候得共差
向御用辨ニモ拘リ候義ニ付先三男三郎而已
及面會立合等列席之次第申談銕次郎ハ右模
様ニ應シ列席有無見計ヒ候積リニ而通詞両
人吕連三男三郎官吏之對話
彼方
一御奉行衆ヘ於御用所御正談致シ候節通詞
之モノ着座ニテ通辨致候處此方ニ而ハ御
役人方一同腰掛ケ相用申候右ハ甚無禮之
筋ニ而矢張着座ニ而通辨有之度候

一右ハ奉行罷越候節モ腰掛ケ相用候儀ニ付着
座ニ不及是迄之通取計度候
通詞之モノ着座難相成候ハヽ御引合仕間
敷候
一是迄之仕来ヲ改候儀ハ自分限リ難取計候ヘ
トモ差向ヘ談有之候處右等之事ニ拘リ會
無之様ニ而ハ用辨差支候間今日ハ先着座ニ
テ通辨為致可申候
一以後之義ハ奉行ヘモ申聞可及挨拶且今日御
徒目付高須銕次郎同道罷越候處自分之外役

人列席之儀者迷惑之旨申聞候ハ共兼而モ申
入候通同人ニモ奉行面會之節其外トモ一同接
對可致旨政府之命ヲ請出張在候モノニ付欠
席致義ハ我ハ國法ニ而難成筋ニ付是迄之通
列席致シ及談判度候
一此程御奉行衆ハ御面會之節外御役之御退
席有之以後右之通御取計有之度段急度御
斷申置候儀ニ而素ヨリ御對謁イタシ候ハ
御一人ニ而事足候儀外無用之御列席之儀
一ハ何分ニモ及御斷候

一先日御奉行ハ右之趣御申聞候由然ル處密事
等ハ格別其餘ハ役々列席ニ無之候而ハ對詰
難致旨申談兼知有之候趣奉行申聞候義ニ而
列席無之積ニハ及兼不申何ニモ右申入候趣
意ニ付鍜次郎一同及引合度候
一何樣ニ仰聞候トモ御壹人之外御斷申上候
若右ニ而御差支之筋有之候ハヽ以後トモ
モ決而御引會仕間敷候
此趣通詞者筑屋一郎ヲ以鍜次郎ヘ申談
一先今日ハ同人欠席之積リ

一差向候儀ニ付先今日ハ自分而已ニ而可及引
會以後之義ハ奉行ヘモ申聞別段可申談候
一市店ニ而物ヲ撰候儀ハ差支無之筈條約ニ
有之候處何故諸式買調候儀難成樣御取計
有之候哉
一條約之趣ヲ以市店ニ而物ヲ撰候儀ハ勝手次
第取計不苦候
一是迄召仕之モノ等市店於テ調物為致候積
リ申付差出候儀度々ニ候得共何方ニ而モ
一賣渡一義無之御用所ヘ罷越可申立或ハ眼

前有之品ヲモ取隱シ又ハ無之趣等申聞更
ニ取敢候モノ無之右ハ畢竟外國人ヘハ諸
式賣渡候儀致間敷段御奉行所ヨリ御觸渡
之有之候儀ト奉存候
一素ヨリ條約ニ有之儀無差支賣渡候樣觸渡置
候儀勿論ニ有之併町村家敷等モ相應ニ有之
殊ニ小前末々ニ至リ候而ハ自然觸渡之趣心
得違又ハ趣意柄通兼候場合ヨリ不都合之事
出來イタシ候儀有之間敷ニモ難申右ハ其度
々巨細申遣シ候樣取計儀ニ而終ニハ行渡リ

可申何分不事馴儀速ニハ難行届候間左様可
被心得候
一右市店ニ而調物難出来儀ハ是迄モ度々申
上度義之處今以差支候儀ハ必定賣渡之儀
御差留ニ相違無之被仰聞候通之儀ニ候
一得ハ僅計之市中此節迄不行届儀ハ決而無
之筋ニ有之然ル處何ッ迚モ同様之御挨拶
有之候而誠ニ小児ヲ御欺被成候様ナル御
處置何分ニ其儘ニハ難差置畢竟外國人ヲ
御忌嫌ヒ有之土地可追拂タメ右様之相振

舞有之ニ相違無之然ル上ハ有体諸式賣渡
等之儀差置候様可被仰聞候
一賣場差留候儀ハ決而無之賣渡候様ニト觸置
候義夫々申入候通ニ候
一既ニ昨日モ支那人菓子商ヒ候見世ヘ立寄
調度旨申談候處無之趣申聞其段御用所ヘ
罷越申立同所ヨリ案内有之漸々買調候儀
ニ而右様之類所々ニヲイテ度々有之如斯
證據慥ニ有之上ハ賣渡間敷段御觸有之候
ニ無相違若被仰聞候通之御觸有之儀ニ候

ハヽ其證疏可有之被仰譯而已ニ而ハ一
圓落意不被致條約ヲ御破被成候儀顯然致
シ候
一元来國ト國トニ而取結候大事之條約ヲ市店
之賣物等鎖細之事ニ拘リ右ヲ破リ不平ヲ可
引犯儀等可有之哉得ト熟考有之度候
一鎖細之事ヲスラ御行届無之況哉手重之ケ
條ニオイテハ甚以無覚束右一條而已無之
條約弟四ケ條ニヲ他國同様緩優ニ致シ閉
籠候之儀等ハ致間敷同五條ニ長崎ニ於テ

唐和蘭人ヲ閉籠候様之窮屈成取扱無之等
之ケ條有之右ヲ人民之上ヲ指候義ニ而官
吏等貴官之所置ニ關係無之ハ勿論之處如
此閉籠セシメ番人等被御附置候ハ條約ヲ
貳重ニ御破被成候筋ニ有之右之外ニモ條
約ニ不叶御所置所々有之迚モ此上和親之
名義等相存シ候義ハ難整右之件々委細亜
國政府ヘ申遣シ官吏モ早ク引拂候積リニ
有之然ル上ハ兼而御斷申置通リ戦争ニオ
ヨヒ勝敗ヲ一時ニ相決可申日本ニオイテ

條約ヲ破候ニ付及戦爭候上ハ無名之兵端
ヲ開キ候ニハ無之勝利十分之義被存候
一勤番役人之義ハ此程モ申談候通之趣意ニ而
決而其許ニ關係イタシ候義ニハ無之併番人
心得不都合ニ候上ハ委細奉行ヘ申聞何トカ
勘辨之取計可有之右等モ行違ヨリ其許歸國
被致或ハ戦爭ナトヽハ存モ不寄義ニ而實ニ
驚申候
一是迄之御取扱委ク難心得金銀量目替等之
御引會其外政府ニモ申立置候次第モ彼是

有之其處更ニ御挨拶無之右モ和親ヲ御破
可被成御含ヨリ之御所置ト相聞其餘品々
不都合之義有之候得共最早決心イタシ候
ニ付逸々被申上間敷候
一都而之事件速ニ難決モ實ニ開港以来イマタ
間合無之外國接對之所置不相備故ニ而其許ニ
ハ嘸々御待遠且等閑之取扱抔可被思候ヘト
モ決而打捨置候義ニハ無之候間推察勘辨有
之度候
一左様之御挨拶ヲ聞飽申候兎角小児ヲ御欺

一被成候様之御所置更ニ落意イタシ可申
候
一金壹分丈ケ之銭御渡有之候様イタシ度段
先達中ヨリ度々申立候得共　政府ヘ被仰
立相成居候由ニ而御渡無之右者瑣細之義
且差向入用有之候早速ニ御渡可被下候
一右ハ政府ヨリイマタ差圖無之併今日談之趣
ハ委細奉行ヘ申聞候
一先日通辨ヒユスケント對シ狼藉オヨヒ
候モノハ最早御取押有之候哉

一先日モ申談候通何方之モノニ候哉難相分丈
々穿鑿方申付置候ヘトモイマタ行衛等不相
知
一右モ官吏等可追拂タメ之取計ヨリ出候義
ニ察シ申候
一談之趣ハ齒牙ニモ不掛義別段答ニモ及ヒ申
間敷候
一都而之御所置ヲ以考候得共甚以疑敷義被
存候
一今日談之趣丈ケ奉行ヘ申聞猶別段可及引會

一候

右之通御座候

一十二月廿三日

有所不為齋雜録

安政三年丙辰

昨廿二日於御用所和其亜米利加官吏ヘ應接ニ及ヒ候趣左之通御座候

一應接掇畢

此方

一昨日若菜三男三郎ヨリ被申聞候市店買物不都合之義其外トモ委細兼知致候右品物賣渡之義ハ條約之趣ヲ以兼而觸渡置候ヘ共猶今朝町村役人トモ呼出シ嚴敷申渡候間向後不都

一兼テ云々彼ノ辞一字可下笘

合之義有之間敷併下賤之モノトモ萬一不都合之仕向等有之候ハヽ時刻ヲ不移被申聞様イタシ度候

一兼而被仰渡ト之儀ニ候得共私渡来後既ニ五ヶ月ニモ相成唯改候タメノミナラス追々不都合之義出来イタシ候ハ何トモ難心得候都而被仰聞候義眼前一時之御申譯而已ニ而甚不快事トモニ御座候

一疑惑被致候段尤之筋ニ候ヘトモ當地之人情鎖末之事モ乙甲ニ存シ其許ニハ不限コノ方トモヘ諸式賣上候モ兎角手重迷惑心得候様子甚不宜仕僻ニハ候得トモ素々隅意等有之儀ニハ聊無之右等之事情ハセメテ両三年モ滞在有之ハ具ニ相分可申心永々熟察有之度候

一鬻者之酷者ヲ忌嫌ヒ候事事實ニ於テ無之儀是迄被仰聞件々皆無智之小児ヲ諭シ候御所為最早御申譯ハ御無用ニ可被成候

一右様之存慮ニ而ハ如何様事ヲ分ヶ申入候而モ無詮ニ付任申別段申入間敷候

一今日被仰渡ト之儀ニ候間此上商人共仕向
カタヲ様シ可申候
一玉泉寺境内勤番人引拂之儀ハ御手限ニ而御
取計相成候御威權有之候哉
一右之儀ニ付而モ品々申入度儀有之候
一細々トノ御談ニハヲヨヒ不申右番人進退
政府ヨリ不被仰立御自由ニ相成候程之御
威權有無兼知仕度候
一勤番ノモノトモ進退之儀ハ素ヨリ手限ニ而
出来イタシ候

一左候ハヽ速ニ為御引拂被下度候且先頃中
ヨリ度々申上候錢御渡方之儀ハ如何御座
候哉
一兼知イタシ候玉泉寺詰之儀ハ明日モ為引拂
可申錢之儀モ手限ニテ兼届申立之通金壹分
丈可渡遣候
一番人為御引拂被下段甚快存候尤以後宿寺
門外ハ勿論最寄等ヘモ番舎御取建之儀ハ
前以御斷申候
一勤番人之儀為引拂候ヘトモ國民取締ニモ拘

リ候事ニハ此上政府之命ニ依テモ猶引合ヒ
可申候
一兼知致候
一昨日三男三郎引合候節立會之モノ列席ニ相
斷候ヨシ右ハ自分ヘモ此程面會之節之如ク
密事之引合ニ候得ハ組頭以下役々退席為致
候ヘトモ平常普通之引合ニハ役々不相揃候
而ハ難相成規則ニ而平日國内之諸般迎モ其
筋之役々立合取扱候儀ニ付以後密事談判之
外ハ都而是迄之通役々為立會候間此段心得
可申候
一御用所之儀ハ其御役所之事故御規則次第何
レニモ可被成私宿寺ヘハ立會之衆一切御
立入御無用ニ候
一左候ハヽ向後瑣末之事マテ御用所ニ無之而
而談判難相成様成行其方オイテモ品々差支
可申候
一以後ハ御用所ヘ相越候欤又ハ書面ヲ以御
掛合可申候
一兼知イタシ候

一私儀政府之命ヲ受罷越候専務ハ誠實懇切之深意相貫キ両國之交情日増厚相成候様取計候為ニ有之各板ニモ其御心得ヲ以御懇篤ニ御取扱有之度左候ハヽ何事ニヨラス心底ヲ不残可申述其御方ニハ品々不都合之御取扱有之候ヘトモ私方ニハ上陸以来不都合之儀ハ有間敷兎角御疎遠ニ被成度御心底ヨリ自國歳旦之日御入之義兼而申上置候處其期ニ到リ御斷相成甚遺憾ニ存候何事モ隔意ナキ御仕向トハ難申御懇意イタシ候上ハ右様之儀無之様イタシ度向後都而御嫌忌被成表裏之御取計相止不申候ハヽ不日意外之災ヒ出来可申候

一右之外申聞候義無之哉

一無之候

官吏申聞候件々不都合廉々有之委細可申談處悉ク立腹致シ居更ニ申聞候義聞請不申列坐イタシ居候御徒目付ヲ指シ事柄ハ不相分候得共頻ニ罵候様子ニ相見亦ハ給仕之者茶持参候ヲ見請差出候ニ不及ト之儀ニモ可有

之手ヲ振拂ヒ除ケ候様致都而之所為發狂人
之体ニ付強而及引合候而モ一向憤怒モ相募
候マテニテ趣意猶通兼候ニ付對話相止申候
右之通ニ御座候

十二月廿三日

有所不為齋雜録

弘化三丙午年間

北手一作狩

弘化三年丙午

弘化三年丙午

私領分東蝦夷地エトロフ島之内ルヘツ持場東
浦見張番所一里半程相隔北手モシエト申処海
岸去月十一日夕七ツ時比火煙相見得手招致候
者有之候ニ付村方之者ト相心得村方夷人紋次
郎辨吾両人罷越候処異國人壹人上陸致居礒際
ニテ小舡ヲ風除ニ致藥鑵様之物釣下ケ火ヲ焚
居紋次郎ヲ捕押懐中ヨリ何哉取出吹キ候付振放

両人共駈戾相隔見返候處異國人四五人相見ヘ
候段ルヘツ番所ヘ訴出候テ番人之者同様勤番
所ハ致注進候ニ付即刻為見届勤番家来共蝦夷
人通詞召連翌十二日字トシモリ川端迄相越候
處異國人七人上陸致居内頭立候者壹人病人ニ
相見ヘ候何等之譯ニテ罷越候哉手真似ニテ相
糺候處及破船候手真似致シ人數十四人居七人
ハ海死之手真似ニモ候哉愁傷之體ニ相見得候
間見届之者ヨリモ破船海死之手真似致為見候
處相點頭及破船長々食料差支渇命ニモ及候様

子ニテ草根等ヲ噛ミ色々手真似致候間何國ニ
テ頃何故致破船候哉手真似ニテ相尋候得共言語
一圓相分不申食物薪水等モ可遣候間早々飆去
候様手真似ヲ以相諭候得共頭ヲ振リ小船ニテ
飆去候儀相成兼候手真似殊ニ飢渇之體ニ付持
合之握飯粥トナシ相與候處一同歓歡候體相見得
候尚食料薪水等可遣候間早々致歸帆候様再應
手真似ヲ以相諭候得共一同頭ヲ振船ヲ口口歸
帆致候得ハ船覆致海死候手真似ヲ以頭ヲ振可
致歸帆體ニ相見不申候間無據ルヘツ勤番所ヘ

口口一本指差シ之二字アリ

召連晝夜無油断番人附添置食物手當等致置此
上力附候ハヽ歸帆之儀又々相諭可申候得共當
時之様子歸帆之體ニモ相見不申尤船之儀ハ長
サ四間餘小筒壹挺其外所持之品々勘番所へ取
上預置候尚又追々取調之上委細可申越段エト
ロフ島勘番家来共ヨリ昨夜私居所へ申越候爰
許家来共之内出立申付尚又嚴重取扱候様申遣
候先此段御届申上候以上

壬五月三日　　松前志摩守

有所不為齋雜録

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan